


# (参考) 茶わん1杯のお米の値段

○ ご飯は経済的な食べ物

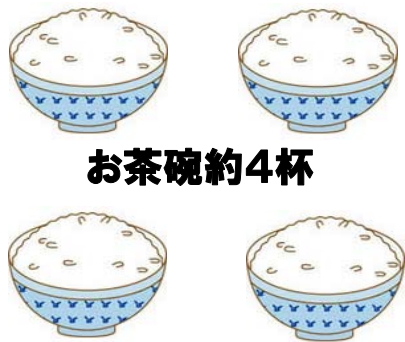
● 茶わん1杯のごはんを炊く前のお米(精米)の重さは **65g** くらいです。5kgの精米は約77杯になりますので、2千円のお米を買ってごはんを炊いた場合、1杯当たりのお米の値段は **約26円** となります。\*



※ 茶わん1杯のごはんは、精米65g使用、5kg当たり2,001円(POSデータによるコメの平均小売価格(平成25年12月))で算出。




=




**お茶碗約4杯**

ミネラルウォーター(2リットル) 103円



**コーヒー**

=

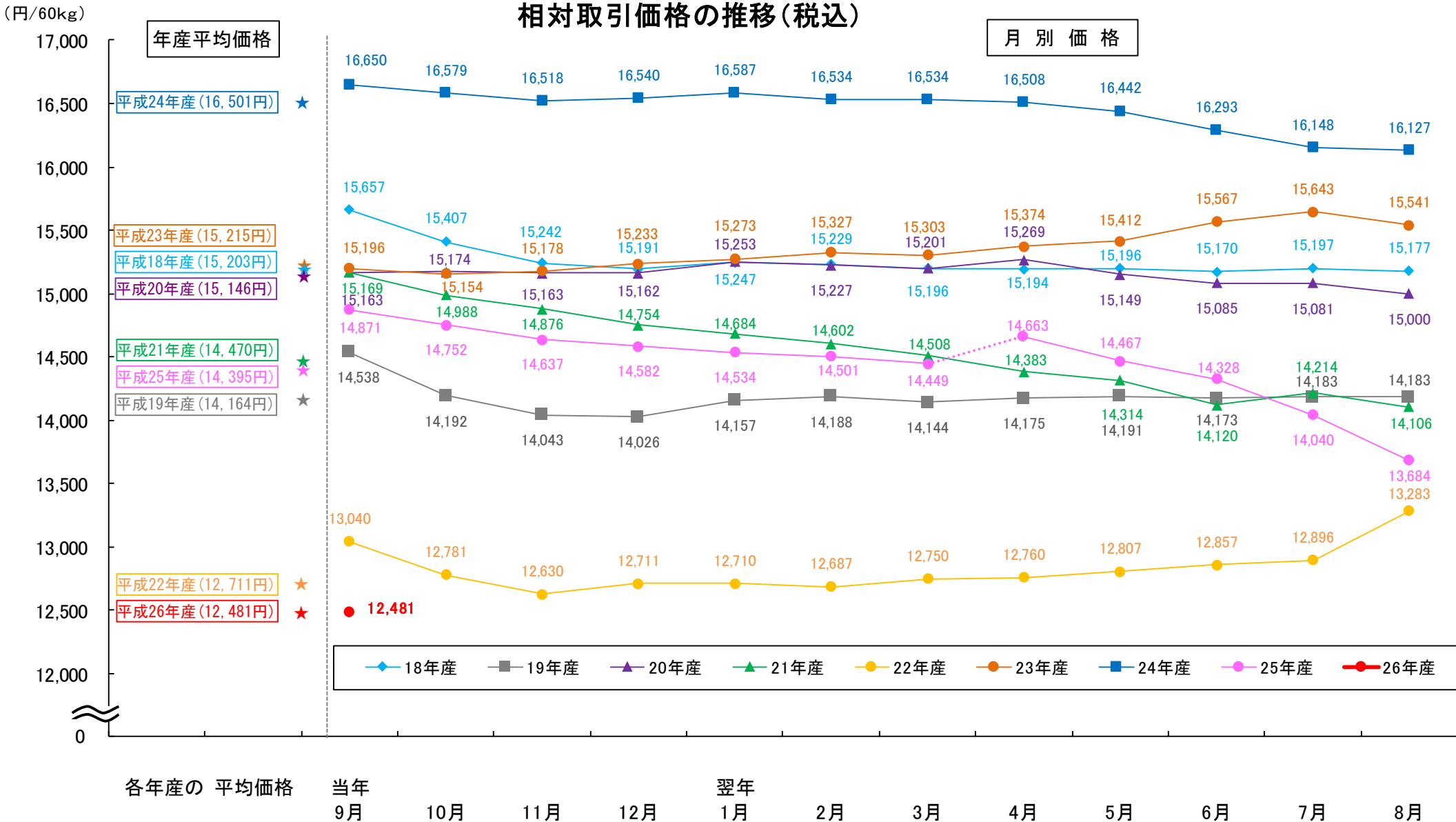


**お茶碗約4.6杯**

缶コーヒー 120円

出展：ミネラルウォーターは、総務省「小売物価統計調査(主要品目の東京都区部小売価格)25年度平均価格」  
缶コーヒーは、街中の自動販売機で販売されている一般的な価格

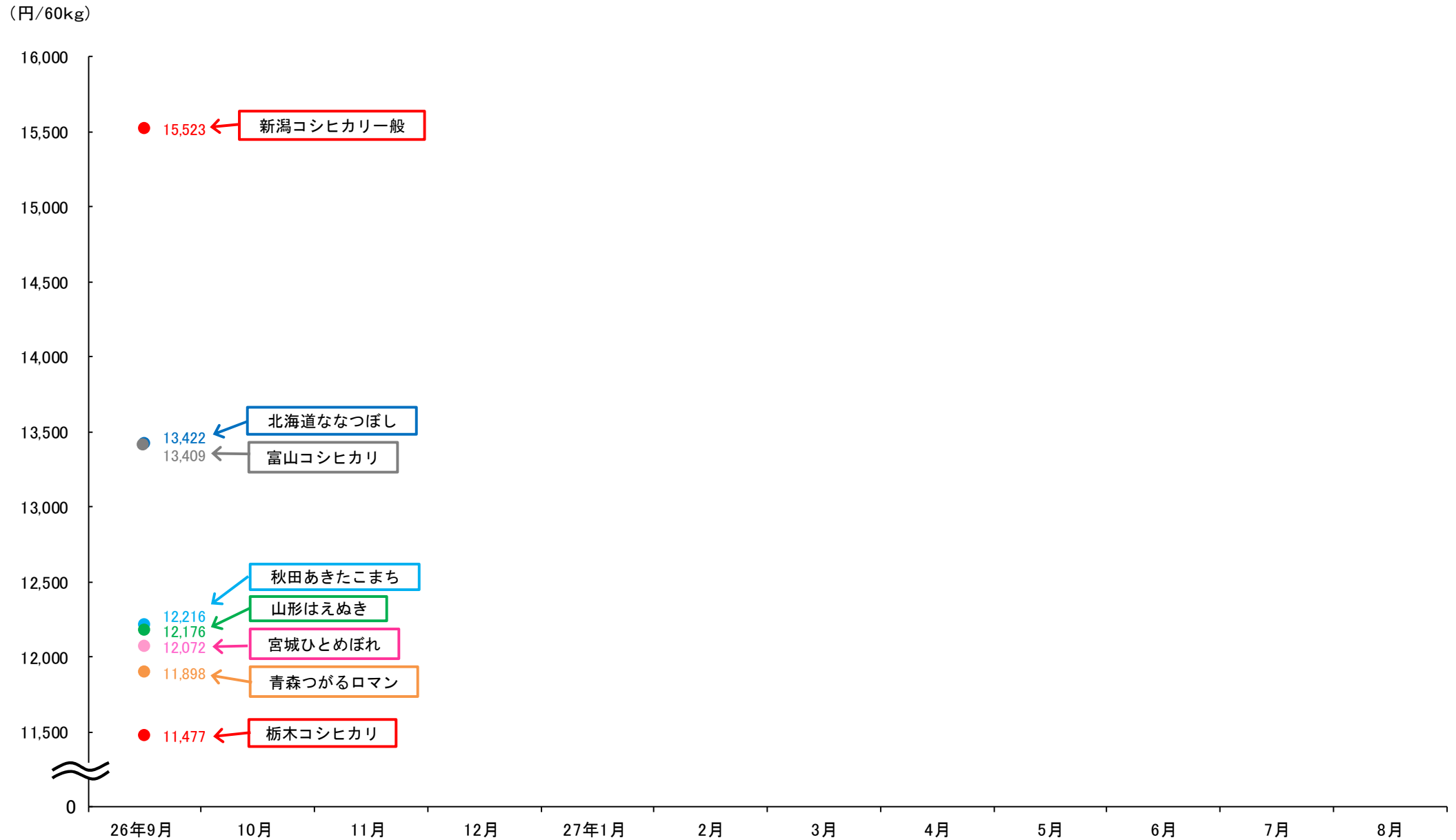
# 14 米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移(平成18年産～26年産)



資料:農林水産省調べ

- 注1: 価格には、運賃、包装代、消費税相当額(5%。ただし、25年産の26年4月分以降は8%)が含まれている。
- 注2: グラフの左側は各年産の平均価格(注3)、それ以降は月ごとの価格の推移。
- 注3: 平均価格とは、当該年産の出回りから翌年10月(25年産は出回りから翌年9月、26年産は当年9月の価格)までの通年平均である。

# 15 産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成26年産)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注： 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

# 16 平成26年産米の相対取引価格・数量(平成26年9月分) ①

相対取引価格・数量(北海道から栃木まで)

(単位:円/玄米60kg税込,玄米トン)

産地	品種銘柄	価格 26年産米 (26年9月) ①	数量 26年産米 (26年9月) ②	参 考							
				価 格				数 量			
				26年産米 (26年8月) ③	対前月比 ①/③	25年産米 (25年9月) ④	対前年比 ①/④	26年産米 (26年8月) ⑤	対前月比 ②/⑤	25年産米 (25年9月) ⑥	対前年比 ②/⑥
北海道	ななつぼし	13,422	18,461	-	-	15,527	86%	-	-	23,374	79%
北海道	きらら397	12,307	3,002	-	-	14,658	84%	-	-	11,632	26%
北海道	ゆめぴりか	16,868	5,001	-	-	18,043	93%	-	-	7,989	63%
青森	まっしぐら	10,149	374	-	-	13,310	76%	-	-	374	100%
青森	つがるロマン	11,898	1,074	-	-	13,250	90%	-	-	472	228%
岩手	ひとめぼれ	12,271	1,623	-	-	14,360	85%	-	-	1,901	85%
岩手	あきたこまち	11,650	319	-	-	14,337	81%	-	-	191	167%
岩手	いわてっこ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城	ひとめぼれ	12,072	5,965	-	-	14,717	82%	-	-	1,925	310%
宮城	ササニシキ	12,771	289	-	-	15,005	85%	-	-	265	109%
宮城	まなむすめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田	あきたこまち	12,216	7,025	-	-	14,481	84%	-	-	3,497	201%
秋田	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田	めんこいな	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形	はえぬき	12,176	646	-	-	13,968	87%	-	-	695	93%
山形	つや姫	16,827	854	-	-	17,361	97%	-	-	398	215%
山形	ひとめぼれ	11,737	469	-	-	13,799	85%	-	-	439	107%
福島	コシヒカリ(中通り)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島	コシヒカリ(会津)	13,882	240	-	-	-	-	-	-	-	-
福島	コシヒカリ(浜通り)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島	ひとめぼれ	11,222	323	-	-	13,657	82%	-	-	416	78%
福島	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城	コシヒカリ	11,344	4,252	-	-	14,555	78%	-	-	4,418	96%
茨城	あきたこまち	10,572	1,121	-	-	13,177	80%	-	-	1,164	96%
茨城	ゆめひたち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木	コシヒカリ	11,477	2,712	-	-	14,660	78%	-	-	2,301	118%
栃木	あさひの夢	7,901	134	-	-	12,075	65%	-	-	112	120%
栃木	なすひかり	10,885	590	-	-	-	-	-	-	-	-

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注： 1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 産地品種銘柄ごとの価格（①）は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格）を加重平均したものであり、数量（②）は、同契約の数量の合計である。

3 価格に含む消費税相当額は、平成26年3月分までは5%、同4月分以降は8%で算定している。

4 加重平均に際しては、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。

5 相対取引価格は、個々の契約内容に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて価格調整（等級及び付加価値等（栽培方法等））が行われることがある。

6 全銘柄平均価格（次々頁）は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定。

7 ④及び⑥は前年産の価格、数量である。

8 次々頁にある「25年産米の全銘柄平均価格（年産平均）」は、25年産米の出回りから平成26年9月までの通年での平均価格。

9 「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの又は当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表を行わないもの。

# 16 平成26年産米の相対取引価格・数量(平成26年9月分) ②

相対取引価格・数量(群馬から兵庫まで)

(単位:円/玄米60kg税込、玄米トン)

産地	品種銘柄	価格 26年産米 (26年9月)	数量 26年産米 (26年9月)	参 考							
				価 格				数 量			
				26年産米 (26年8月)	対前年比	25年産米 (25年9月)	対前年比	26年産米 (26年8月)	対前年比	25年産米 (25年9月)	対前年比
①	②	③	①/③	④	①/④	⑤	②/⑤	⑥	②/⑥		
群馬	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬	ゴロピカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉	彩のかがやき	10,318	135	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉	コシヒカリ	12,168	178	-	-	15,395	79%	-	-	151	118%
埼玉	キヌヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉	コシヒカリ	11,225	8,106	-	-	14,019	80%	-	-	5,994	135%
千葉	ふさこがね	9,525	2,342	-	-	13,022	73%	-	-	1,415	166%
千葉	ふさおとめ	10,139	3,012	-	-	13,234	77%	-	-	2,282	132%
山梨	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野	コシヒカリ	13,035	4,064	-	-	15,155	86%	-	-	4,729	86%
長野	あきたこまち	11,639	1,302	-	-	14,781	79%	-	-	393	331%
静岡	コシヒカリ	13,309	577	-	-	15,795	84%	-	-	384	150%
静岡	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡	キヌヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟	コシヒカリ(一般)	15,523	12,100	-	-	16,646	93%	-	-	8,140	149%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	19,508	2,797	-	-	21,335	91%	-	-	2,277	123%
新潟	コシヒカリ(岩船)	15,926	1,449	-	-	17,031	94%	-	-	885	164%
新潟	コシヒカリ(佐渡)	15,922	1,812	-	-	17,013	94%	-	-	1,494	121%
新潟	こしいぶき	11,698	3,708	-	-	14,199	82%	-	-	3,947	94%
富山	コシヒカリ	13,409	8,399	-	-	15,368	87%	-	-	6,539	128%
富山	てんたかく	11,924	1,232	-	-	14,366	83%	-	-	623	198%
石川	コシヒカリ	13,702	1,204	-	-	15,278	90%	-	-	1,169	103%
石川	ゆめみづほ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井	コシヒカリ	13,218	3,044	-	-	15,609	85%	-	-	1,928	158%
福井	ハナエチゼン	11,643	1,343	-	-	14,394	81%	-	-	765	176%
岐阜	ハツシモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜	コシヒカリ	12,096	1,084	-	-	15,326	79%	-	-	316	343%
岐阜	あきたこまち	11,779	415	-	-	14,586	81%	-	-	489	85%
愛知	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知	コシヒカリ	12,189	236	-	-	14,936	82%	-	-	520	45%
愛知	大地の風	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重	コシヒカリ(一般)	12,746	1,331	-	-	15,054	85%	-	-	1,646	81%
三重	コシヒカリ(伊賀)	13,199	360	-	-	15,121	87%	-	-	593	61%
三重	キヌヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀	コシヒカリ	12,439	4,628	-	-	15,236	82%	-	-	3,692	125%
滋賀	キヌヒカリ	11,054	2,951	-	-	14,028	79%	-	-	2,393	123%
滋賀	日本晴	10,401	1,012	-	-	13,782	75%	-	-	696	145%
京都	コシヒカリ	13,291	2,296	-	-	15,329	87%	-	-	873	263%
京都	キヌヒカリ	11,839	260	-	-	14,223	83%	-	-	163	160%
兵庫	コシヒカリ	13,684	1,349	-	-	15,476	88%	-	-	1,428	94%
兵庫	キヌヒカリ	-	-	-	-	13,795	-	-	-	136	-
兵庫	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注: 本表の注意点は前頁の脚注を参照

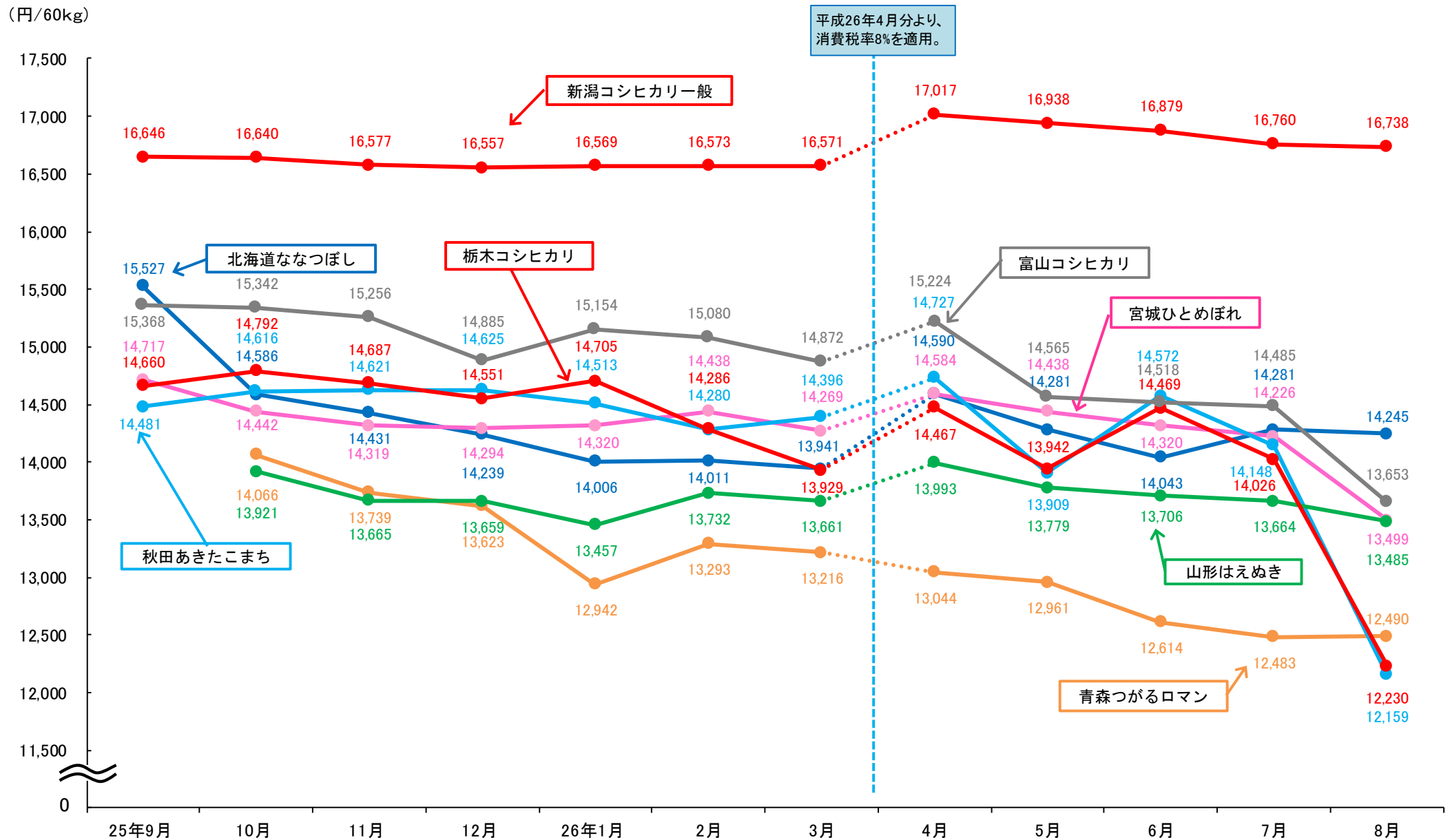
# 16 平成26年産米の相対取引価格・数量(平成26年9月分) ③

相対取引価格・数量(奈良から鹿児島まで) (単位:円/玄米60kg税込、玄米トン)

産地	品種銘柄	価格 26年産米 (26年9月) ①	数量 26年産米 (26年9月) ②	参 考							
				価 格				数 量			
				26年産米 (26年8月) ③	対前月比 ①/③	25年産米 (25年9月) ④	対前年比 ①/④	26年産米 (26年8月) ⑤	対前月比 ②/⑤	25年産米 (25年9月) ⑥	対前年比 ②/⑥
奈良	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取	コシヒカリ	12,802	255	-	-	15,301	84%	-	-	408	63%
鳥取	ひとめぼれ	11,567	566	-	-	14,296	81%	-	-	733	77%
島根	コシヒカリ	12,216	3,606	-	-	15,814	77%	-	-	919	392%
島根	きぬむすめ	11,180	1,956	-	-	14,484	77%	-	-	460	425%
島根	ハナエチゼン	10,844	471	-	-	14,601	74%	-	-	298	158%
岡山	アケボノ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山	あきたこまち	11,604	278	-	-	14,279	81%	-	-	161	173%
岡山	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島	コシヒカリ	12,546	1,547	-	-	14,964	84%	-	-	909	170%
広島	あきろまん	-	-	-	-	13,605	-	-	-	143	-
広島	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口	コシヒカリ	12,994	947	-	-	15,053	86%	-	-	1,082	88%
山口	ひとめぼれ	12,149	308	-	-	14,301	85%	-	-	254	121%
山口	ヒノヒカリ	12,298	104	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島	コシヒカリ	11,214	973	-	-	13,157	85%	-	-	3,111	31%
徳島	キヌヒカリ	9,873	314	-	-	12,966	76%	-	-	512	61%
香川	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川	コシヒカリ	12,861	576	-	-	14,281	90%	-	-	587	98%
愛媛	コシヒカリ	12,566	507	-	-	15,721	80%	-	-	391	130%
愛媛	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛	あきたこまち	11,939	277	-	-	15,056	79%	-	-	267	104%
高知	コシヒカリ	11,459	1,590	-	-	14,498	79%	-	-	1,196	133%
高知	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡	夢つくし	14,970	730	-	-	16,832	89%	-	-	1,435	51%
佐賀	夢しずく	12,821	161	-	-	14,897	86%	-	-	310	52%
佐賀	さがびより	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	にこまる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	コシヒカリ	14,296	261	-	-	15,804	90%	-	-	254	103%
熊本	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本	森のくまさん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本	コシヒカリ	12,946	886	-	-	14,702	88%	-	-	941	94%
大分	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎	コシヒカリ	12,830	443	-	-	15,174	85%	-	-	830	53%
宮崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島	コシヒカリ	-	-	-	-	15,195	-	-	-	171	-
鹿児島	あきほなみ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>全銘柄平均価格、合計数量</b>		<b>12,481</b>	<b>144,766</b>	-	-	14,871	83.9%	-	-	133,647	108.3%
<b>全銘柄平均価格</b>		<b>12,481</b>	25年産米の全銘柄平均価格(年産平均)		14,395	86.7%					

注：本表の注意点は前々頁の脚注を参照

# 17 産地品種銘柄別相対取引価格の推移(平成25年産)

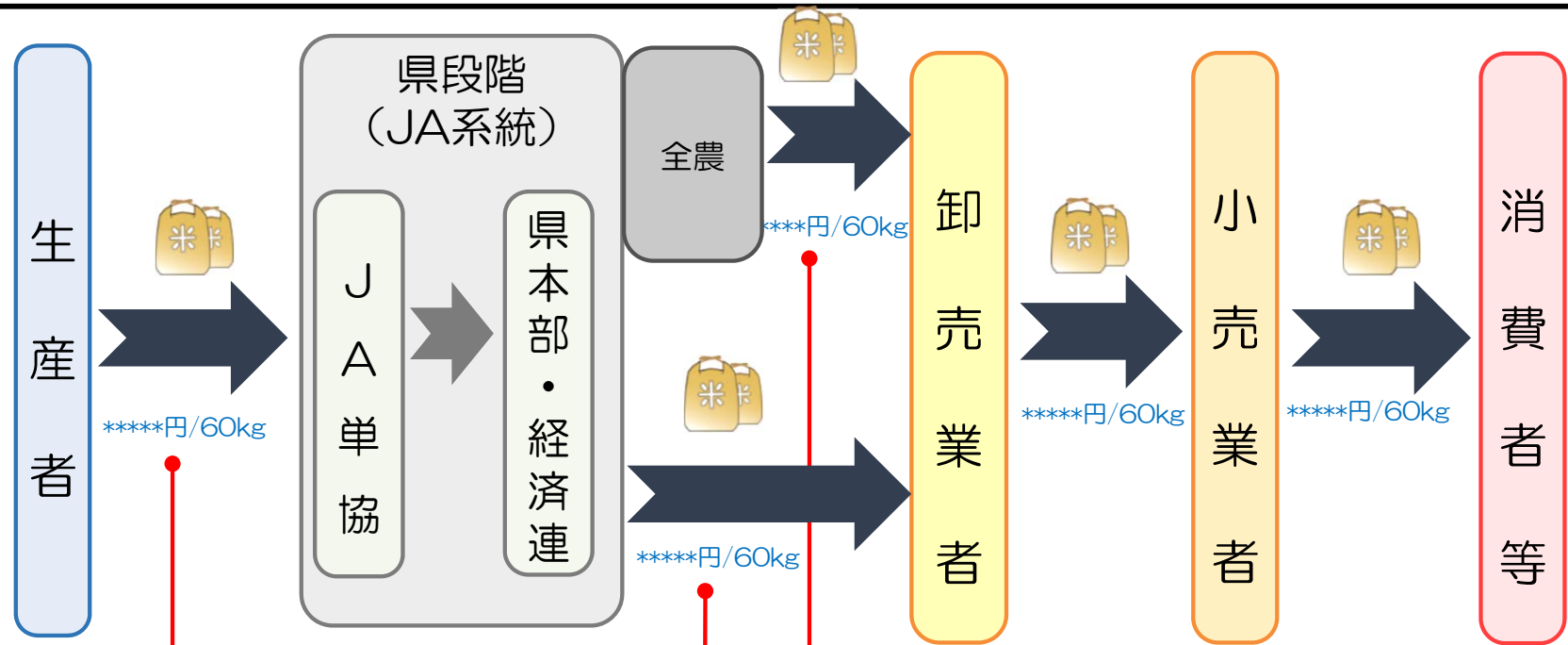


資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：価格には、運賃、包装代、消費税相当額（平成26年3月までは5%、それ以降は8%）が含まれている。

# 18 米の主な流通経路及び概算金決定の流れ

- 米の概算金は、JA等の集荷業者が生産者の出荷の際に支払う仮渡金であり、県単位で全農県本部・経済連が決定。  
※ JA単位で独自に上乗せする場合もある。
- また、全農県本部・経済連は販売の見通しが立った時点で、販売見込額から経費・概算金を除いた額を生産者に追加払い。
- 全農・経済連から卸売業者等に対する販売は、全農・経済連が相対取引基準価格(定価のようなもの)を踏まえ、卸等と協議して決められている。



**概算金**：出荷した際に支払われる仮渡金

概算金の水準は、各県の全農県本部・経済連が、それぞれ独自に決定。

販売の見通しが立った時点で追加支払い

**相対取引価格**：出荷団体(業者)・卸売業者間で取引されている価格 (国が公表)

実際の相対取引に際し、卸売業者等に販売する際の定価として、全農県本部・経済連は相対取引基準価格を事前に設定。



# 19 26年産米の概算金・相対基準価格の動向について

- 26年産米の概算金について、26年産の生産量は前年よりも大きく減少すると見込まれるものの、
  - ① 「民間在庫が大きく、作柄も良い(民間調査会社:作況102)」など26年産は需給緩和傾向とこれまで報じられてきたこと
  - ② スポット取引や先物取引の価格が低下していること
  - ③ 各県段階のJA系統では、できるだけ早く売り切りたい、共同計算赤字になるリスクを小さくしたいとの意識が根強いこと
 などを背景として、各県のJA系統は概算金を前年よりも大幅に引き下げて設定しているところ(前年から▲2,000～▲3,000円)。
- また、JA系統の販売予定価格と概算金との間には差があり、農家所得の確保の観点からは、適切な価格での販売、販売費の縮減等のJA系統における販売努力も求められるところ。

## 26年産米の概算金・相対取引基準価格（県本部・経済連が卸等に販売する際の定価（販売予定価格））の設定状況

(概算金単位：円/60kg、1等) (相対取引基準価格単位：円/60kg、1等、包装代・税込)

産地銘柄	概算金			26年産相対取引基準価格 D	26年産米の概算金と相対取引基準価格との差 E=D-B	
	25年産	26年産	対前年差			
	A	B	C=B-A			
北海道	ななつぼし	12,000	10,000	▲ 2,000	13,180	+3,180
青森	つがるロマン	10,800	7,600	▲ 3,200	11,830	+4,230
岩手	ひとめぼれ (A地区)	11,200	8,400	▲ 2,800	13,018	+4,618
宮城	ひとめぼれ	11,200	8,400	▲ 2,800	13,342	+4,942
秋田	あきたこまち	11,500	8,500	▲ 3,000	13,342	+4,842
山形	はえぬき	11,000	8,500	▲ 2,500	13,126	+4,626
福島	コシヒカリ (会津)	12,100	10,000	▲ 2,100	14,530	+4,530
	コシヒカリ (中通り)	11,100	7,200	▲ 3,900	12,586	+5,386
茨城	コシヒカリ	11,500	9,000	▲ 2,500	13,666	+4,666
栃木	コシヒカリ	11,800	8,000	▲ 3,800	13,666	+5,666
埼玉	コシヒカリ (A地区)	12,100	8,000	▲ 4,100	13,126	+5,126
千葉	コシヒカリ	11,700	9,000	▲ 2,700	13,666	+4,666
神奈川	キヌヒカリ	11,300	10,200	▲ 1,100	13,126	+2,926
新潟	コシヒカリ (一般)	13,700	12,000	▲ 1,700	16,366	+4,366
	こしいぶき	11,700	9,000	▲ 2,700	12,586	+3,586
富山	コシヒカリ	12,300	10,500	▲ 1,800	14,530	+4,030

産地銘柄	概算金			26年産相対取引基準価格 D	26年産米の概算金と相対取引基準価格との差 E=D-B	
	25年産	26年産	対前年差			
	A	B	C=B-A			
石川	コシヒカリ	12,000	10,000	▲ 2,000	14,206	+4,206
岐阜	コシヒカリ (特A)	12,200	9,700	▲ 2,500	13,932	+4,232
福井	コシヒカリ	12,000	10,000	▲ 2,000	14,206	+4,206
三重	コシヒカリ (一般)	11,700	9,000	▲ 2,700	13,666	+4,666
静岡	コシヒカリ	12,060	9,300	▲ 2,760	13,450	+4,150
愛知	コシヒカリ	12,400	9,100	▲ 3,300	13,462	+4,362
滋賀	コシヒカリ	12,300	9,200	▲ 3,100	13,666	+4,466
鳥取	コシヒカリ	12,000	9,200	▲ 2,800	13,666	+4,466
島根	コシヒカリ	12,200	9,000	▲ 3,200	13,666	+4,666
岡山	ヒノヒカリ	10,822	8,300	▲ 2,522	12,154	+3,854
広島	コシヒカリ	12,000	9,400	▲ 2,600	13,176	+3,776
山口	コシヒカリ	12,240	9,000	▲ 3,240	13,666	+4,666
福岡	夢つくし	12,600	10,620	▲ 1,980	15,286	+4,666
佐賀	夢しずく	10,000	8,000	▲ 2,000	13,342	+5,342
長崎	コシヒカリ	12,300	10,400	▲ 1,900	14,206	+3,806
熊本	コシヒカリ	12,240	10,740	▲ 1,500	14,530	+3,790

※業界紙の情報を基に農林水産省でまとめたもの

# 20 26年産の概算金・相対取引基準価格・相対取引価格の動向について

(概算金単位：円/60kg、1等) (相対取引基準価格単位：円/60kg、1等、包装代・税込) (相対取引価格単位：円/60kg、1等、包装代・税込)

産地銘柄	概算金			相対取引基準価格			相対取引価格(9月の価格)			相対基準価格と概算金の差についての26年産と25年産の比較 ⑩=⑥-③	概算金(26年産)と相対取引価格(26年産)の差 ⑪=⑧-②	
	25年産 ①	26年産 ②	対前年差 ③=②-①	25年産 ④	26年産 ⑤	対前年差 ⑥=⑤-④	25年産 ⑦	26年産 ⑧	対前年差 ⑨=⑧-⑦			
北海道	ななつぼし	12,000	10,000	▲2,000	14,757	13,180	▲1,577	15,527	13,422	▲2,105	+423	+3,422
青森	つがるロマン	10,800	7,600	▲3,200	14,547	11,830	▲2,717	13,250	11,898	▲1,352	+483	+4,298
岩手	ひとめぼれ A地区	11,200	8,400	▲2,800	14,967	13,018	▲1,949	14,360	12,271	▲2,089	+851	+3,871
宮城	ひとめぼれ	11,200	8,400	▲2,800	15,387	13,342	▲2,045	14,717	12,072	▲2,645	+755	+3,672
秋田	あきたこまち	11,500	8,500	▲3,000	15,597	13,342	▲2,255	14,481	12,216	▲2,265	+745	+3,716
山形	はえぬき	11,000	8,500	▲2,500	15,177	13,126	▲2,051	13,968	12,176	▲1,792	+449	+3,676
福島	コシヒカリ 会津	12,100	10,000	▲2,100	16,227	14,530	▲1,697	-	13,882	-	+403	+3,882
	コシヒカリ 中通り	11,100	7,200	▲3,900	15,702	12,586	▲3,116	-	-	-	+784	-
茨城	コシヒカリ	11,500	9,000	▲2,500	16,437	13,666	▲2,771	14,555	11,344	▲3,211	▲271	+2,344
栃木	コシヒカリ	11,800	8,000	▲3,800	16,437	13,666	▲2,771	14,660	11,477	▲3,183	+1,029	+3,477
埼玉	コシヒカリ A地区	12,100	8,000	▲4,100	15,597	13,126	▲2,471	15,395	12,168	▲3,227	+1,629	+4,168
千葉	コシヒカリ	11,700	9,000	▲2,700	16,437	13,666	▲2,771	14,019	11,225	▲2,794	▲71	+2,225
神奈川	キヌヒカリ	11,300	10,200	▲1,100	14,232	13,126	▲1,106	-	-	-	▲6	-
新潟	コシヒカリ 一般	13,700	12,000	▲1,700	17,277	16,366	▲911	16,646	15,523	▲1,123	+789	+3,523
	こしいぶき	11,700	9,000	▲2,700	14,862	12,586	▲2,276	14,199	11,698	▲2,501	+424	+2,698
富山	コシヒカリ	12,300	10,500	▲1,800	15,912	14,530	▲1,382	15,368	13,409	▲1,959	+418	+2,909
石川	コシヒカリ	12,000	10,000	▲2,000	15,912	14,206	▲1,706	15,278	13,702	▲1,576	+294	+3,702
岐阜	コシヒカリ 特A	12,200	9,700	▲2,500	16,380	13,932	▲2,448	15,326	12,096	▲3,230	+52	+2,396
福井	コシヒカリ	12,000	10,000	▲2,000	16,437	14,206	▲2,231	15,609	13,218	▲2,391	▲231	+3,218
三重	コシヒカリ 一般	11,700	9,000	▲2,700	16,437	13,666	▲2,771	15,054	12,746	▲2,308	▲71	+3,746
静岡	コシヒカリ	12,060	9,300	▲2,760	16,542	13,450	▲3,092	15,795	13,309	▲2,486	▲332	+4,009
愛知	コシヒカリ	12,400	9,100	▲3,300	15,923	13,462	▲2,461	14,936	12,189	▲2,747	+839	+3,089
滋賀	コシヒカリ	12,300	9,200	▲3,100	15,912	13,666	▲2,246	15,236	12,439	▲2,797	+854	+3,239
鳥取	コシヒカリ	12,000	9,200	▲2,800	15,912	13,666	▲2,246	15,301	12,802	▲2,499	+554	+3,602
島根	コシヒカリ	12,200	9,000	▲3,200	16,437	13,666	▲2,771	15,814	12,216	▲3,598	+429	+3,216
岡山	ヒノヒカリ	10,822	8,300	▲2,522	14,967	12,154	▲2,813	-	-	-	▲291	-
広島	コシヒカリ	12,000	9,400	▲2,600	15,540	13,176	▲2,364	14,964	12,546	▲2,418	+236	+3,146
山口	コシヒカリ	12,240	9,000	▲3,240	16,437	13,666	▲2,771	15,053	12,994	▲2,059	+469	+3,994
福岡	夢つくし	12,600	10,620	▲1,980	16,962	15,286	▲1,676	16,832	14,970	▲1,862	+304	+4,350
佐賀	夢しずく	10,000	8,000	▲2,000	15,492	13,342	▲2,150	14,897	12,821	▲2,076	▲150	+4,821
長崎	コシヒカリ	12,300	10,400	▲1,900	16,962	14,206	▲2,756	15,804	14,296	▲1,508	▲856	+3,896
熊本	コシヒカリ	12,240	10,740	▲1,500	16,962	14,530	▲2,432	14,702	12,946	▲1,756	▲932	+2,206

注1： 相対取引価格は、各年9月分の価格である。

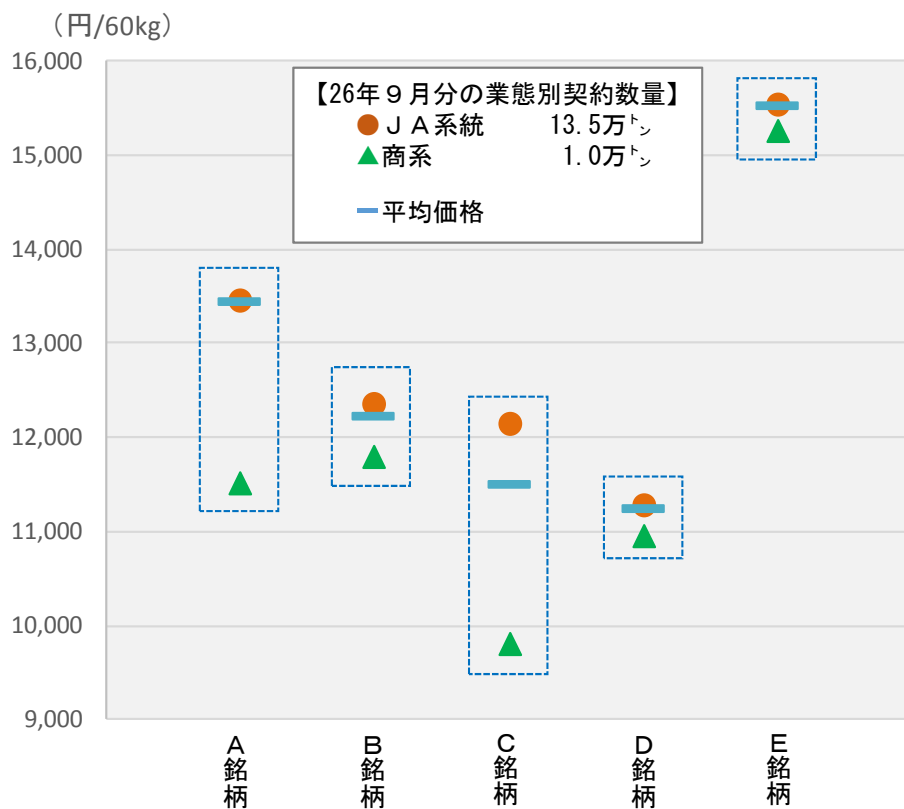
2： 消費税率は、26年産については8%、25年産については5%を適用している。

3： 農林水産省が調査・公表している相対取引価格の調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者が対象(年間の販売数量5,000トン以上等)。

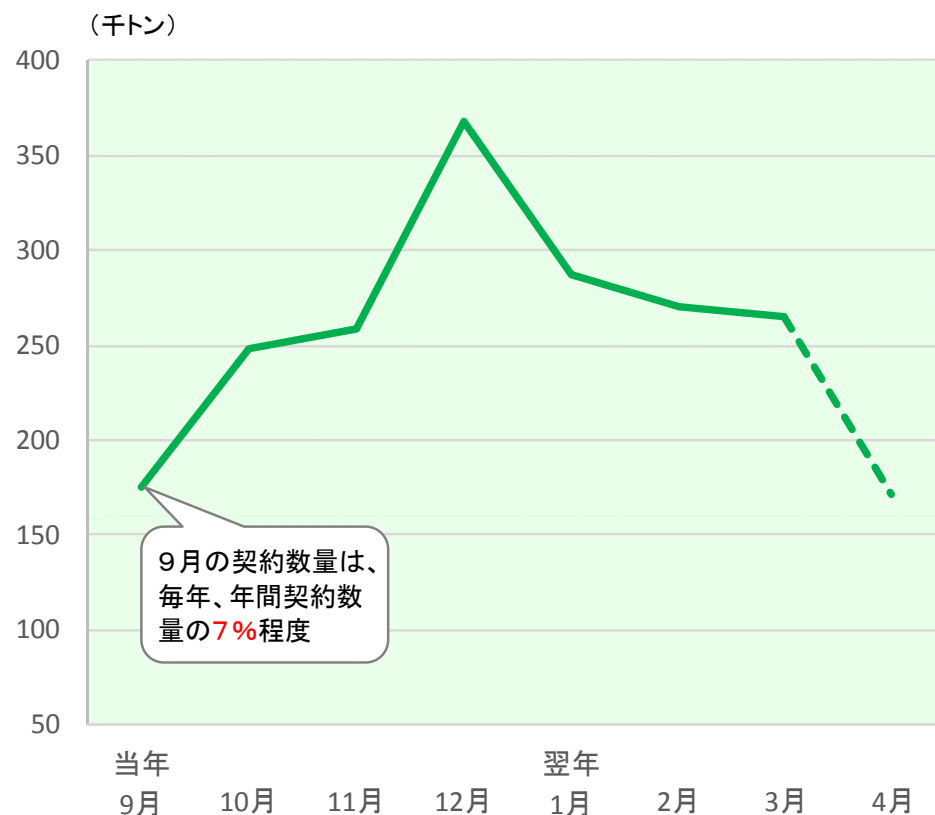
# 21 26年産米の取引価格の動向

- 相対取引価格は、年間販売量が5,000トン以上の比較的大きな集荷業者の取引価格となっているが、その中でも業者ごとに価格のバラツキが大きくなっている。
- 詳細を見ると、出来秋時に、概算金に少額の上乗せをした価格で仕入れた集荷業者が、比較的低価格での販売を行っているところ。
- ただし、毎年、このような低価格で仕入れられる量は限られており、また、こうした集荷業者は長期間保有しないため、このような仕入・販売は、出来秋から年内の限られた期間にとどまっていると考えられる。
- 米の販売は、今後、1年かけて行われていくものであり、過度の売り急ぎ等が発生せず、安定的な供給が行われていくことが必要と考えられる。

## 1 銘柄・業態別販売価格



## 2 月別契約数量 (5カ年平均(21~25年産))



# 22 水稻うるち玄米の1等比率

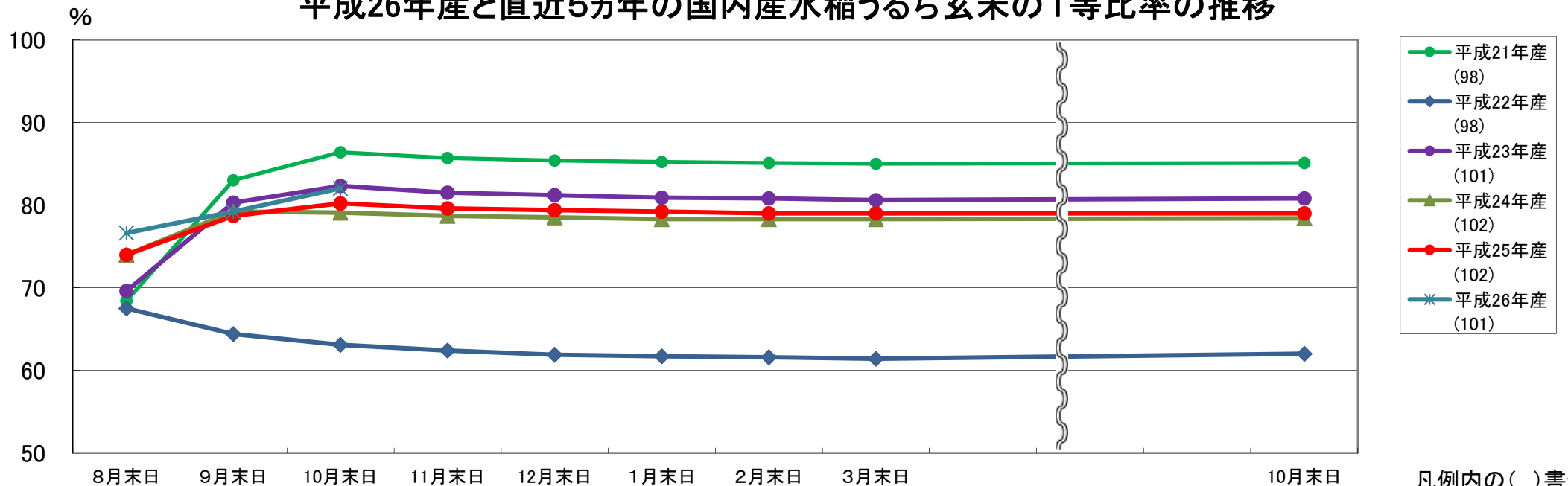
	平成 26 年産	平成 25 年産	平成 24 年産	平成 23 年産	平成 22 年産	平成 21 年産
8月末日	76.6	74.0	74.0	69.6	67.5	68.4
9月末日	79.2	78.7	79.2	80.3	64.4	83.0
10月末日	82.0	80.2	79.1	82.3	63.1	86.4
11月末日	-	79.6	78.7	81.5	62.4	85.7
12月末日	-	79.4	78.5	81.2	61.9	85.4
1月末日	-	79.2	78.3	80.9	61.7	85.2
2月末日	-	79.0	78.3	80.8	61.6	85.1
3月末日	-	79.0	78.3	80.6	61.4	85.0
最終	-	79.0	78.4	80.8	62.0	85.1

資料：農林水産省とりまとめ。

注1：「1等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合。

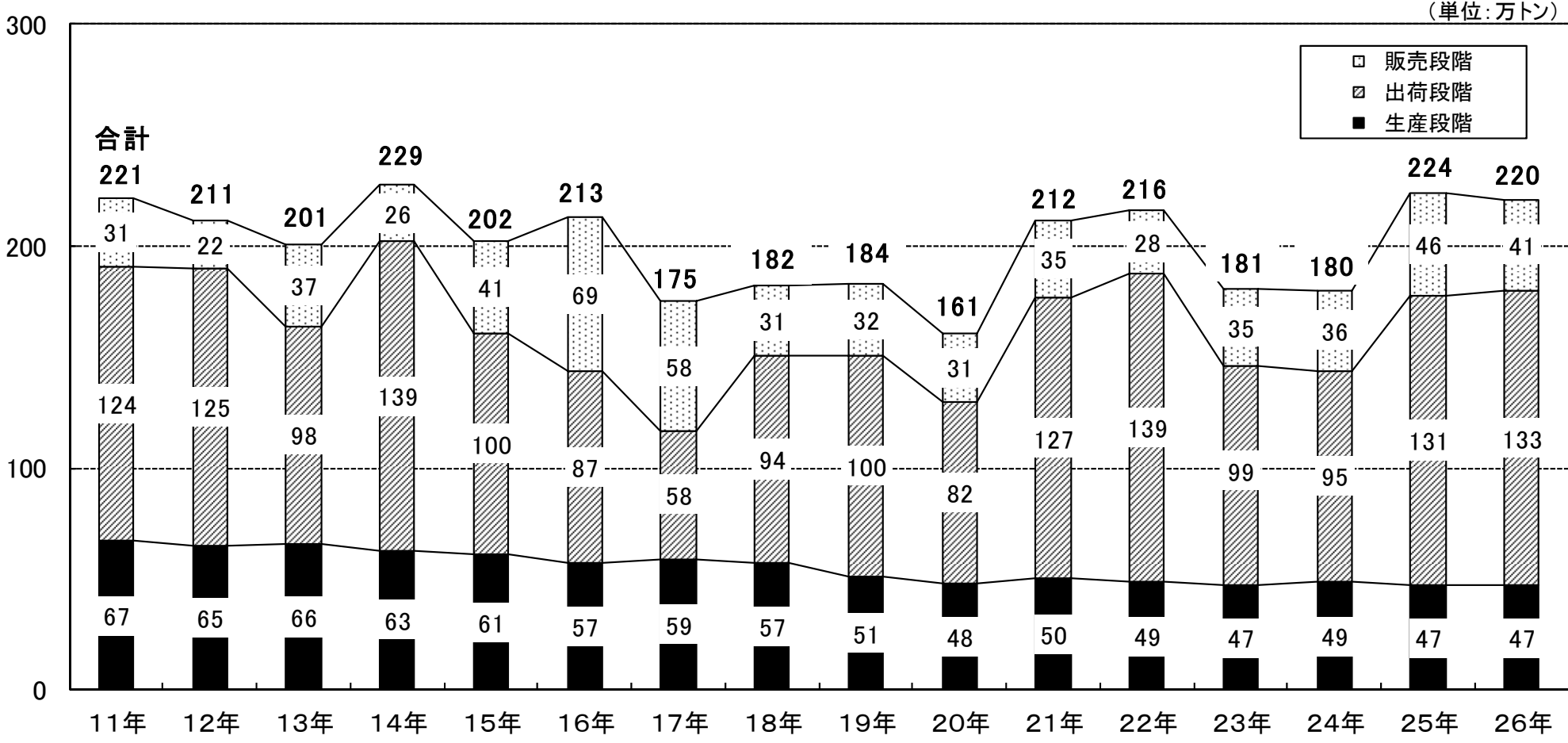
注2：「最終」は、翌年10月末現在。

### 平成26年産と直近5カ年の国内産水稻うるち玄米の1等比率の推移



凡例内の( )書きは、作況指数

# 23 民間流通における6月末在庫の推移



資料：農林水産省調べ

注：1) うるち玄米及びもち玄米の値である。

2) 各年の民間在庫量において、

- ① 16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者(販売・出荷段階)の数量である。
- ② 15年については、
  - ・ 販売段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の旧登録卸売業者と1,000トン以上の旧登録小売業者の数量である。
  - ・ 出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。
- ③ 14年以前については推計値であり、
  - ・ 販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量(推計)を加えた数量である。
  - ・ 出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量(推計)を加えた数量である。

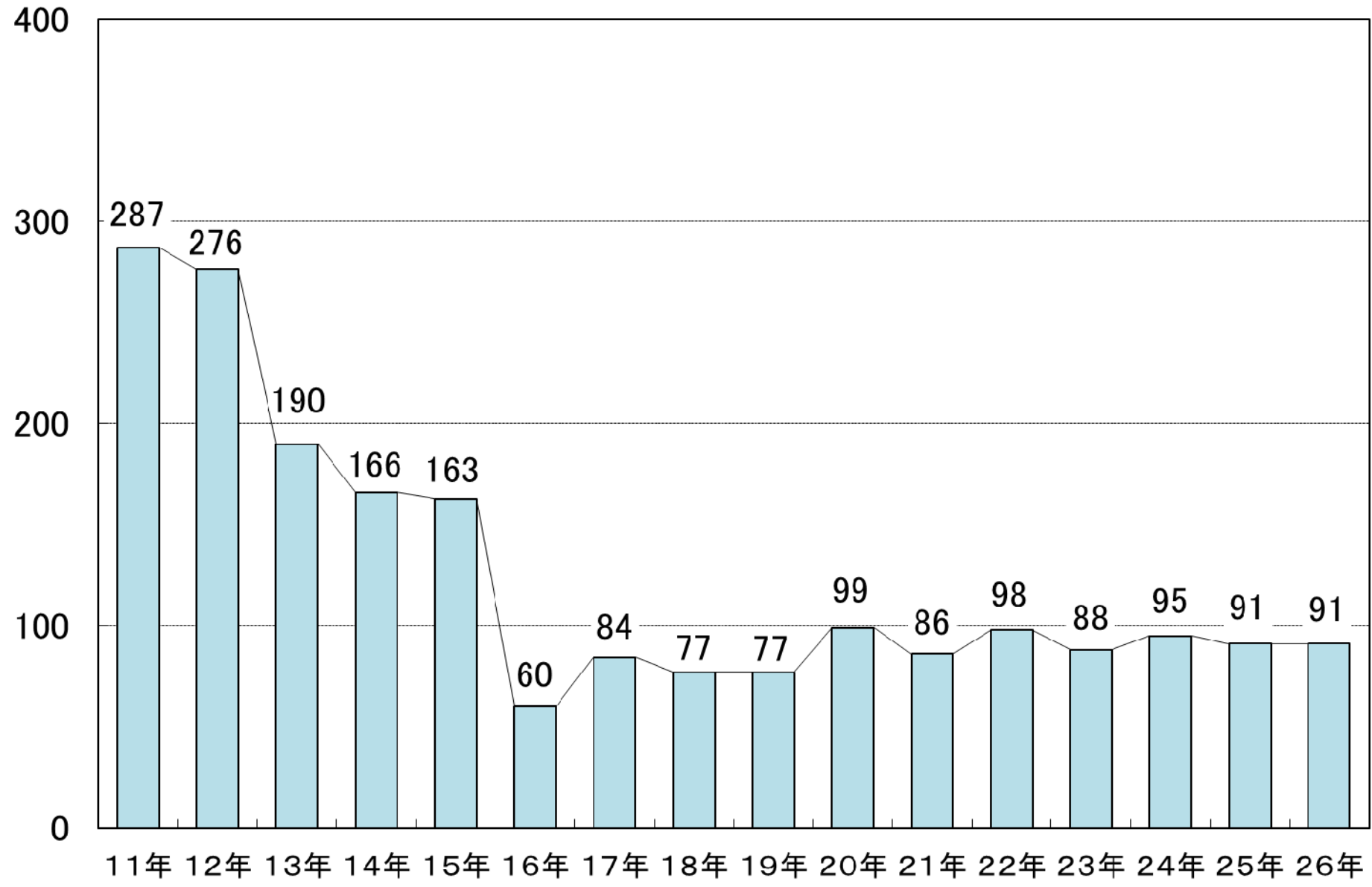
なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」(平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」)を基に算出(精米在庫量を除く玄米在庫量)した数量である。

3) 26年の出荷段階の在庫量には、公益社団法人米穀安定供給確保支援機構の買入数量35万トンを含んでいない。

4) ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

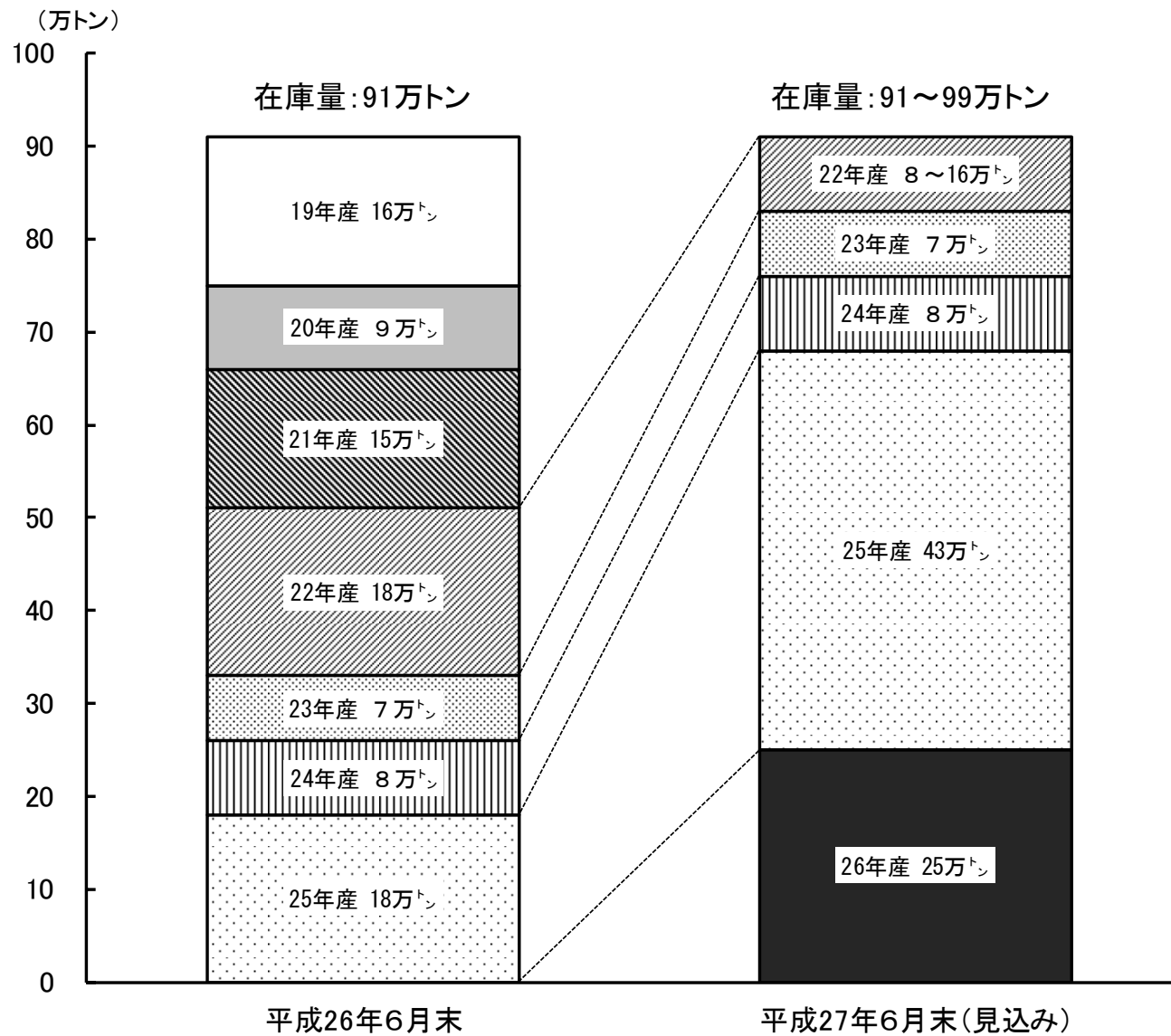
## 24 政府備蓄米の6月末在庫の推移

(単位:万トン)



注：国産うるち玄米の数量である。

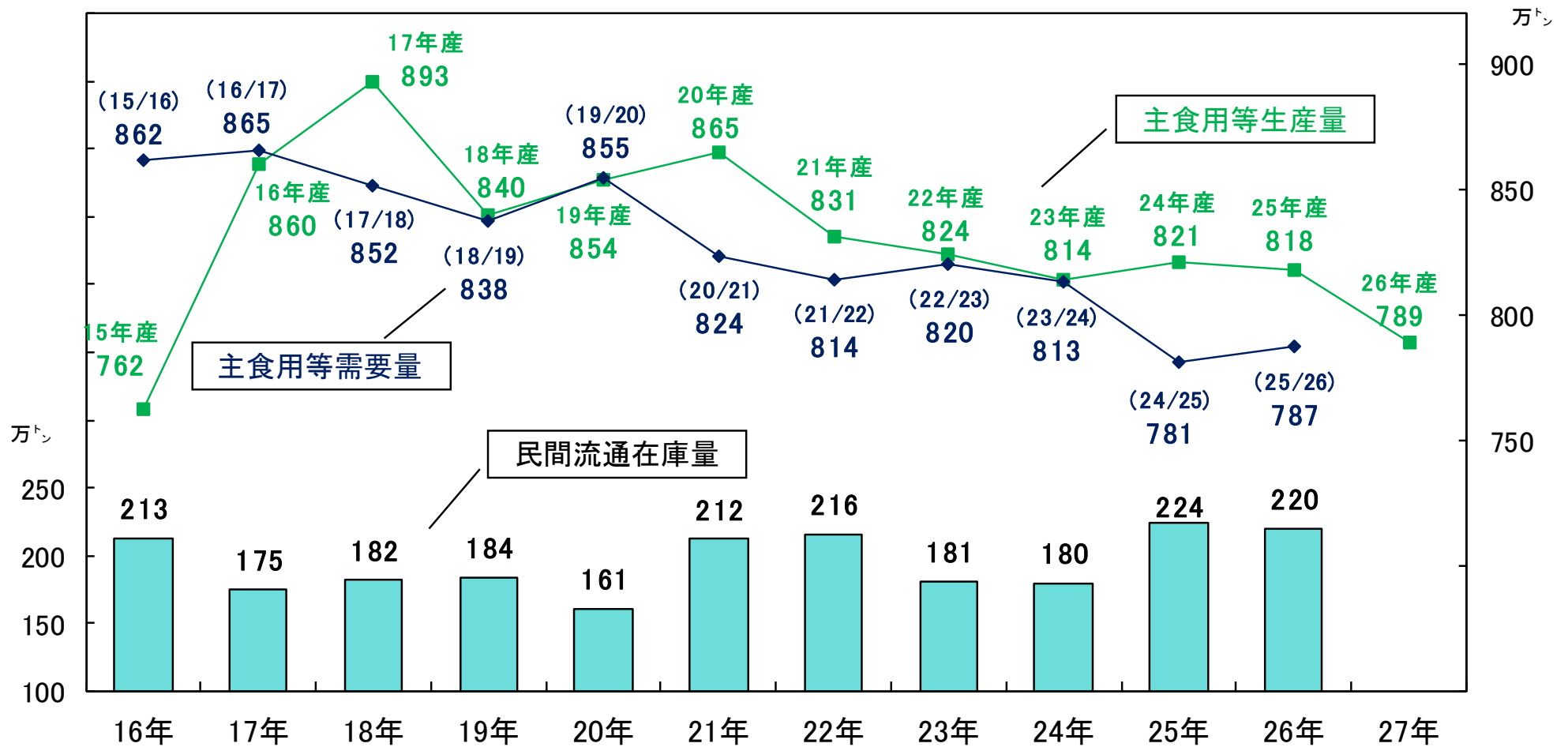
## 25 政府備蓄米の在庫の状況



注1：国産うるち玄米の数量である。

注2：保有期間が一定の期間を経過している米については、17~25万トンの範囲内で非主食用に販売することとしている。

## 26 主食用等の生産量と需要量及び民間在庫の推移



資料：農林水産省調べ

注：1) 主食用等需要量は前年7月から当年6月までの需要実績である。

2) 主食用等生産量（水陸稲収穫量－（加工用米＋新規需要米（飼料用・バイオ用を除く）＋備蓄米）は、前年産の数値である。

3) 民間流通在庫量は当年6月末現在の数値である。



# 27 26年産米の政府備蓄米の買入

単位:トン

買入対象米穀の 産地別優先枠		第1回 (1月28日)	第2回 (2月12日)	第3回 (2月25日)	第4回 (3月11日)	第5回 (3月25日)	第6回(4月22日)			26年産 落札 合計数量
産地名	数量	落札数量	落札数量	落札数量	落札数量	落札数量	提示数量	入札数量	落札数量	
北海道	14,080	1,010	13,070	0	0	0				14,080
青森	20,450	20,450	0	0	0	0				20,450
岩手	8,000	8,000	0	0	0	0				8,000
宮城	11,000	11,000	0	0	0	0				11,000
秋田	25,500	25,500	0	0	0	0				25,500
山形	13,530	13,530	0	0	0	0				13,530
福島	20,000	20,000	0	0	0	0				20,000
茨城	1,480	425	971	84	0	0				1,480
栃木	11,170	11,170	0	0	0	0				11,170
埼玉	640	640	0	0	0	0				640
千葉	2,830	410	2,380	40	0	0				2,830
新潟	32,400	32,400	0	0	0	0				32,400
富山	12,840	153	12,687	0	0	0				12,840
石川	4,020	4,020	0	0	0	0				4,020
福井	640	640	0	0	0	0				640
長野	770	770	0	0	0	0				770
岐阜	740	0	740	0	0	0				740
静岡	100	0	73	27	0	0				100
愛知	1,810	0	600	0	780	0				1,380
三重	810	0	810	0	0	0				810
滋賀	1,600	1,600	0	0	0	0				1,600
兵庫	560	286	149	0	0	0				435
奈良	30	0	0	0	0	0				0
鳥取	1,320	0	1,320	0	0	0				1,320
島根	100	0	100	0	0	0				100
岡山	3,170	485	2,685	0	0	0				3,170
広島	1,010	12	0	998	0	0				1,010
山口	340	0	0	340	0	0				340
徳島	1,520	303	780	395	36	6				1,520
香川	530	0	0	530	0	0				530
愛媛	340	0	340	0	0	0				340
高知	80	0	0	0	28	40				68
福岡	460	0	364	20	0	2				386
佐賀	830	0	0	830	0	0				830
長崎	80	0	20	0	0	0				20
熊本	590	0	590	0	0	0				590
大分	240	0	240	0	0	0				240
道府県別枠計①	195,610	152,804	37,919	3,264	844	48				194,879
指定なし②	54,390	36,493	17,887	10	0	0	731	2,645	731	55,121
合計(①+②)	250,000	189,297	55,806	3,274	844	48	731	2,645	731	250,000

# 28 東日本大震災を踏まえての災害時に対応した備蓄の検討

## 精米備蓄の概要

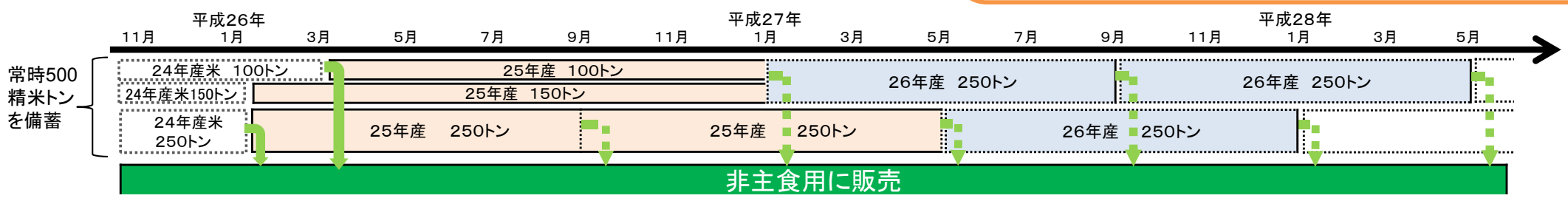
- 《背景》
- 東日本大震災発生後に、被災地から応急食料としての精米の供給要請
  - 大消費地である首都圏において一時的に米の品薄状態が発生
- 《課題》
- 大規模災害への備えとして、一定量の精米のストックが必要
  - 大規模災害発生直後に大都市圏で発生が想定される需要増加・精米供給能力の低下に対応する体制の確保が必要

## 《具体的な実施スキーム》

- 平成24年度から、政府が買い入れる備蓄米の一部を活用して精米(無洗米)形態での備蓄を実施。
  - 備蓄量：500トン(東日本大震災発生～4月20日までの被災地向け精米供給量に相当)
  - 実施主体：政府所有米穀の販売等業務の委託を受けた民間団体等
- 備蓄後一定期間を経過した精米については、非主食として販売。(大規模災害が発生した場合は、本来の目的どおりに被災地等に供給。)

## 具体的なスケジュール(予定)

(備蓄用精米の切り替えの時期はイメージであり、今後変更となる可能性がある。)



## 食味等分析試験及び販売実証の結果概要

### ○ 食味等分析試験の結果概要(2産地品種銘柄平均)

備蓄期間	理化学分析			食味評価	
	水分 (%)	脂肪酸度 (mg)	濁度 (ppm)	基準米との比較による総合評価	主観による絶対評価
基準米	14.3	3.0	12.0	-	-
2ヶ月	14.6	3.2	11.4	-0.1	3.5
4ヶ月	14.3	4.8	14.5	-0.6	2.7
6ヶ月	14.1	5.7	14.6	-0.3	2.8
8ヶ月	14.3	7.4	13.9	-0.2	2.7
10ヶ月	14.5	9.0	15.3	-0.6	2.5
12ヶ月	14.5	9.6	15.1	-0.6	2.6

(参考)・水分は、農産物規格規程における精米(完全精米・一等)の基準が15.0%以下とされている。  
 ・脂肪酸度は、貯蔵期間の経過に伴い上昇することが知られている(特段の基準なし)。  
 ・無洗米の濁度は、28ppm以下が望ましいとされている(全国無洗米協会の濁度基準による)。  
 ・基準米との比較による総合評価は、基準米を0として、±4の9段階で評価(-1は「わずかに不良」)。  
 ・主観による絶対評価は、「5. 非常においしく食べられる」、「4. おいしく食べられる」、「3. 普通に食べられる」、「2. 少し劣るが食べられる」、「1. 受け入れられない」の5段階で評価。  
 ※1 数値は確定値。  
 ※2 食味等分析試験(理化学分析及び食味評価)は、分析機関に委託(食味評価(官能試験)は20名のパネリストにより実施)。  
 ※3 精米備蓄を実施した3産地品種銘柄のうち、1産地品種銘柄については、胚芽の残存が多く見られ、無洗米形態での備蓄可能期間を調べる本試験の試料に適さなかったため、2産地品種銘柄の平均値をとっている。  
 ※4 備蓄用精米(無洗米)は、温度15℃以下、湿度60～65%(目安)の低温倉庫で保管。  
 ⇒ 低温倉庫(15℃以下)で保管した場合、12ヶ月経過後の精米でも、食味は大幅には低下しない。

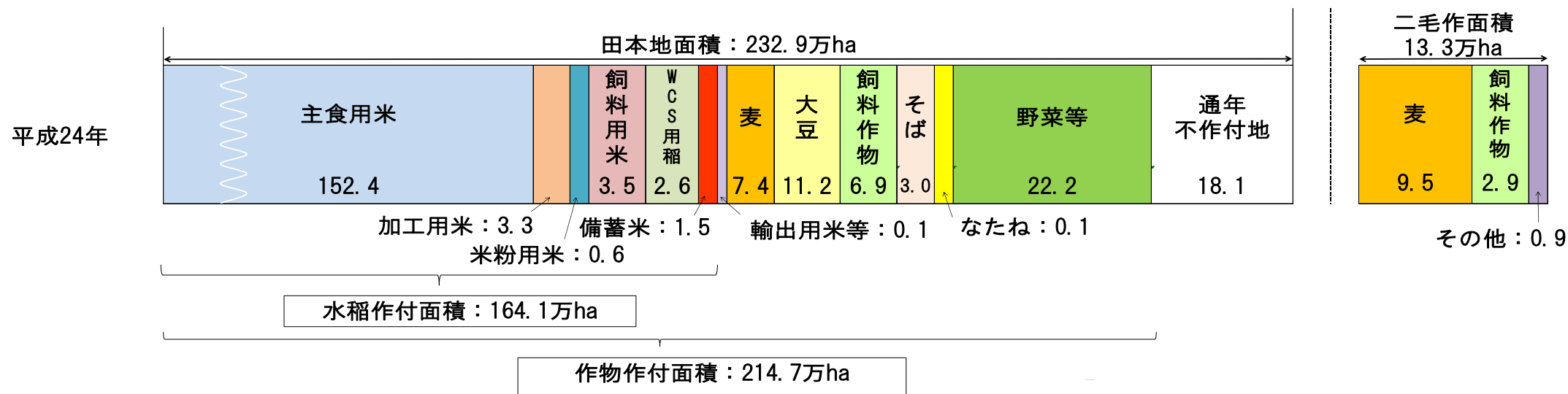
### ○ 販売実証(非主食用への販売)の結果概要

販売時期	備蓄期間	提示数量(t)	申込数量(t)	落札数量(t)
25年3月	2ヶ月	102	1,900	102
25年5月	4ヶ月	99	585	99
25年7月	6ヶ月	102	345	102
	8ヶ月	100	156※1	77※1
26年1月	10ヶ月	101	135	67
	12ヶ月	202	285※1	139※1
26年3月	8ヶ月	100	0	0
	10ヶ月	23※2	0	0
	12ヶ月	34※2	0	0
26年4月	14ヶ月	63※2	6	6
	9ヶ月	100※3	350	100
	11ヶ月	23※3	46	23
	13ヶ月	34※3	68	34
	15ヶ月	57※3	114	57

(参考) ※1 再度公告入札の申込数量を含む。 ※2 26年1月の落札残。 ※3 26年3月の落札残。  
 ⇒ 販売状況は、備蓄期間そのものよりも、その時々需給状況に大きく左右される。

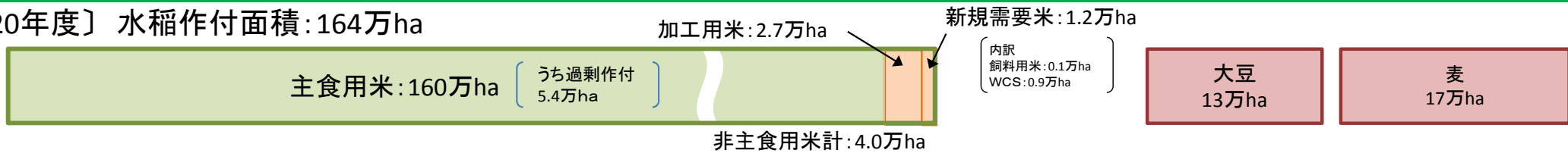
# 29 水田の利用状況(平成24年度)

- 田本地面積 : 233万ha
- うち 主食用米作付面積 : 152万ha

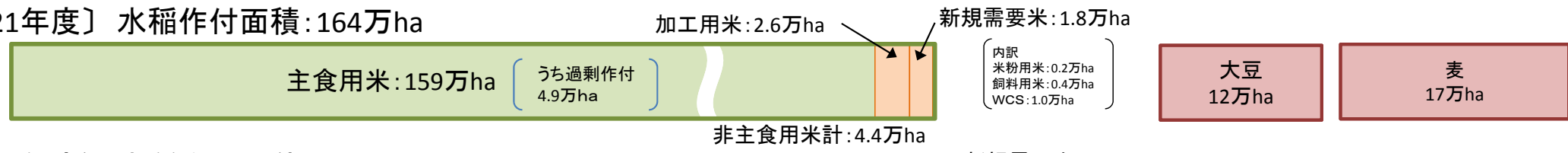


# 30 水田の利用状況の推移

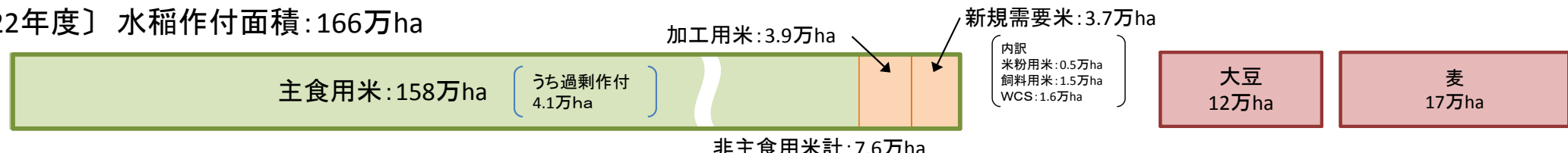
〔20年度〕 水稲作付面積: 164万ha



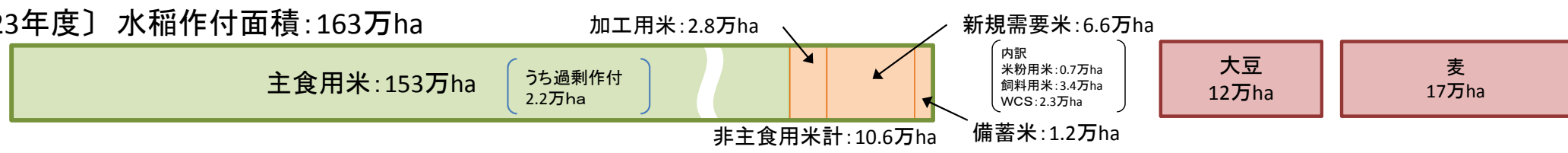
〔21年度〕 水稲作付面積: 164万ha



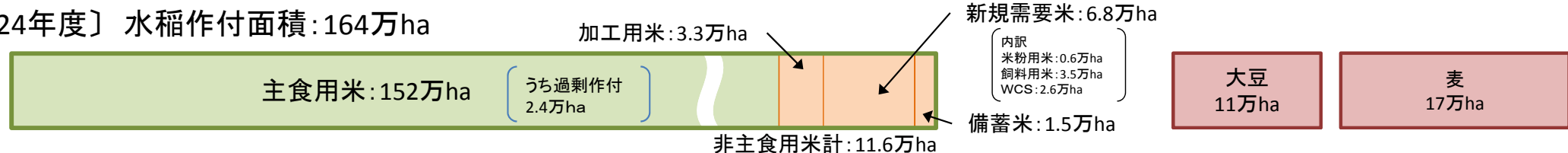
〔22年度〕 水稲作付面積: 166万ha



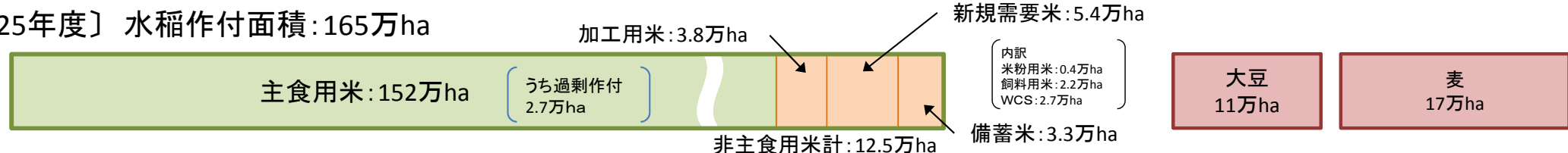
〔23年度〕 水稲作付面積: 163万ha



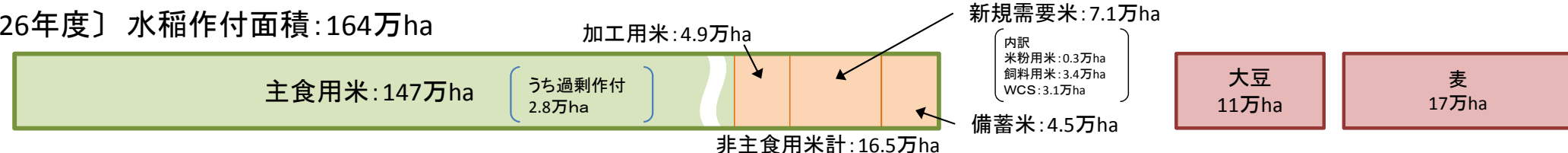
〔24年度〕 水稲作付面積: 164万ha



〔25年度〕 水稲作付面積: 165万ha



〔26年度〕 水稲作付面積: 164万ha



注1) ラウンドの関係で合計値が一致しない場合がある。

注2) 新規需要米の内訳については、0.1万ha以上のもののみ記載した。

## 31 全国の需給調整の取組状況の推移(平成16年産～26年産)

年産	生産数量目標 ① 万トン	主食用米 生産量 ② 万トン	超過数量 ②-① 万トン	①を面積換算 したもの ③ 万ha	主食用米 作付面積 ④ 万ha	超過作付面積 ④-③ 万ha	作況 指数 ⑤
16	857	860	2	163.3	165.8	2.5	98
17	851	893	42	161.5	165.2	3.7	101
18	833	840	7	157.5	164.3	6.8	96
19	828	854	26	156.6	163.7	7.1	99
20	815	865	50	154.2	159.6	5.4	102
21	815	831	16	154.3	159.2	4.9	98
22	813	824	11	153.9	158.0	4.1	98
23	795	814	19	150.4	152.6	2.2	101
24	793	821	28	150.0	152.4	2.4	102
25	791	818	27	149.5	152.2	2.7	102
26	765	789	24	144.6	147.4	2.8	101

注1: ②の主食用米生産量(23年産以前。)は、統計部公表の水稲収穫量から加工用米等の出荷実績数量を控除した数値。

2: ④の主食用米作付面積(23年産以前。)は、統計部公表の水稲作付面積から加工用米等の作付面積を控除した数値。

3: ②、④及び⑤の24年産、25年産の数値は、それぞれ統計部公表の12月の収穫量(主食用)、主食用作付面積及び作況指数。

4: ②、④及び⑤の26年産の数値は、それぞれ統計部公表の平成26年10月15日現在の予想収穫量(主食用)、主食用作付見込面積及び作況指数。

5: ラウンドの関係で内訳が一致しない場合がある。

## 32 平成26年産米の都道府県別の生産数量目標

(単位:トン、ha)

都道府県	生産数量目標	面積換算値	都道府県	生産数量目標	面積換算値	都道府県	生産数量目標	面積換算値
北海道	554,140	103,580	石川	126,400	24,350	岡山	160,190	30,450
青森	247,000	42,290	福井	128,130	24,780	広島	130,130	24,880
岩手	275,540	51,700	山梨	27,590	5,040	山口	110,820	21,990
宮城	362,630	68,420	長野	196,640	31,560	徳島	58,320	12,300
秋田	433,040	75,570	岐阜	114,220	23,410	香川	71,040	14,240
山形	358,570	60,370	静岡	83,800	16,080	愛媛	74,490	14,960
福島	348,420	64,880	愛知	136,330	26,890	高知	50,050	10,880
茨城	341,550	65,430	三重	146,070	29,210	福岡	184,380	36,950
栃木	309,330	57,280	滋賀	163,380	31,540	佐賀	135,230	25,760
群馬	77,120	15,610	京都	76,350	14,940	長崎	62,640	13,100
埼玉	152,680	31,160	大阪	26,210	5,290	熊本	189,920	36,880
千葉	249,280	46,770	兵庫	181,930	36,100	大分	117,780	23,420
東京	770	190	奈良	41,840	8,160	宮崎	94,470	19,010
神奈川	14,290	2,900	和歌山	35,040	7,080	鹿児島	111,540	23,090
新潟	535,640	99,380	鳥取	67,240	13,080	沖縄	2,930	950
富山	192,340	35,820	島根	92,570	18,190	<b>全国計</b>	<b>765万トン</b>	<b>145万ha</b>

注:各都道府県の生産数量目標は、都道府県間調整前の数量である。

# 33 生産数量目標の都道府県間調整の推移

- 米の生産数量目標については、県間で生産数量目標を調整しあう都道府県間調整が行われている。  
(受け手県は生産数量目標が増加し、出し手県は減少)
- 特に、23年産米については、東日本大震災の影響から、被災県とその他の都道府県との間で多くの調整が行われたところ。なお、震災を要因とする県間調整については、今後の生産数量目標の増加・削減要因としないことを前提として実施されている。

(単位:トン)

年産	調整数量 (面積換算値)	出し手県		受け手県	
		県名	数量	県名	数量
20年産	7,590 (1,400ha)	佐賀県	7,590	新潟県	3,510
				福島県	1,480
				青森県	911
				茨城県	620
				石川県	569
				宮城県	450
				山梨県	50
21年産	9,520 (1,800ha)	佐賀県 大分県 宮城県	8,580 690 250	新潟県	5,040
				石川県	1,673
				長野県	1,579
				山形県	931
22年産	2,670 (500ha)	佐賀県 岐阜県	2,655 15	新潟県	2,655
				愛知県	15

年産	調整数量 (面積換算値)	出し手県			受け手県				
		県名	数量	うち震災関連	県名	数量	うち震災関連		
23年産	34,272 (6,400ha)	福島県	23,582	23,582	新潟県	14,054	12,884		
		宮城県	9,512	9,512	秋田県	9,138	9,138		
		佐賀県	1,100	-	青森県	3,380	3,380		
		山形県	70	-	山形県	2,492	2,492		
		青森県	8	-	石川県	1,665	1,665		
					北海道	1,500	1,500		
					長野県	907	907		
					富山県	603	603		
					兵庫県	200	200		
					山梨県	100	100		
24年産	7,601 (1,400ha)	宮城県	4,415	4,415	新潟県	6,413	6,341		
		福島県	3,114	3,114	秋田県	1,034	1,034		
		山形県	72	-	山形県	144	144		
		富山県	1	-	福井県	10	10		
					石川県	1	-		
		25年産	8,115 (1,600ha)	福島県	4,822	4,822	新潟県	6,758	5,714
				宮城県	2,237	2,237	秋田県	794	794
				山口県	990	-	石川県	448	448
				山形県	53	-	千葉県	53	53
				東京都	8	-	山形県	50	50
石川県	4			-	青森県	8	-		
					富山県	4	-		
26年産	5,381 (1,100ha)	福島県	5,248	5,248	新潟県	4,153	4,020		
		山口県	82	-	秋田県	895	895		
		山形県	51	-	長野県	300	300		
			山形県	33	33				

注1: 県間調整については、国が仲介して行った県間調整のほか、方針作成者間調整のうち県をまたいで調整したものも含む。  
 注2: ( )の面積換算値は、出し手県の平年収量で換算した面積(100ha単位)。  
 注3: ラウンドの関係で出し手県の数量と受け手県の数量は一致しない。

# 34 平成26年産米の都道府県別需給調整の取組状況

【26年産】

都道府県名	生産数量 目標 ①	主食用米 生産量 ②	超過数量 ②-①	①を面積換算 したもの ③	主食用米 作付面積 ④	超過作付 面積 ④-③	④/③-1	作況 指数 ⑤
	トン			ha	ha	ha	%	
<b>全国</b>	<b>765万</b>	<b>790万</b>	<b>25万</b>	<b>144.6万</b>	<b>147.4万</b>	<b>2.8万</b>	<b>1.9</b>	<b>101</b>
北海道	554,140	598,200	44,060	103,600	103,500	▲ 100	▲ 0.1	107
青森	247,000	256,600	9,600	42,400	42,200	▲ 200	▲ 0.5	104
岩手	275,540	286,200	10,660	51,700	51,200	▲ 500	▲ 1.0	105
宮城	362,630	374,800	12,170	68,400	67,900	▲ 500	▲ 0.7	105
秋田	433,935	453,000	19,065	75,800	76,000	200	0.3	104
山形	358,552	378,800	20,248	60,400	61,100	700	1.2	105
福島	343,172	351,200	8,028	63,900	62,600	▲ 1,300	▲ 2.0	104
茨城	341,550	397,700	56,150	65,400	72,300	6,900	10.6	105
栃木	309,330	314,800	5,470	57,300	58,300	1,000	1.7	100
群馬	77,120	79,500	2,380	15,600	15,900	300	1.9	101
埼玉	152,680	169,200	16,520	31,200	33,900	2,700	8.7	102
千葉	249,280	325,300	76,020	46,800	58,300	11,500	24.6	104
東京	770	663	▲ 107	190	159	▲ 31	▲ 16.3	101
神奈川	14,290	15,500	1,210	2,900	3,140	240	8.3	101
新潟	539,793	578,100	38,307	100,400	105,300	4,900	4.9	101
富山	192,340	193,900	1,560	35,800	35,700	▲ 100	▲ 0.3	101
石川	126,400	123,400	▲ 3,000	24,400	24,300	▲ 100	▲ 0.4	98
福井	128,130	126,000	▲ 2,130	24,800	24,700	▲ 100	▲ 0.4	98
山梨	27,590	27,600	10	5,040	5,040	0	0.0	100
長野	196,940	202,400	5,460	31,600	32,800	1,200	3.8	96
岐阜	114,220	114,000	▲ 220	23,400	23,500	100	0.4	99
静岡	83,800	86,200	2,400	16,100	16,600	500	3.1	99
愛知	136,330	143,100	6,770	26,900	28,400	1,500	5.6	99
三重	146,070	141,900	▲ 4,170	29,200	28,900	▲ 300	▲ 1.0	98

都道府県名	生産数量 目標 ①	主食用米 生産量 ②	超過数量 ②-①	①を面積換算 したもの ③	主食用米 作付面積 ④	超過作付 面積 ④-③	④/③-1	作況 指数 ⑤
	トン			ha	ha	ha	%	
滋賀	163,380	157,400	▲ 5,980	31,500	31,300	▲ 200	▲ 0.6	97
京都	76,350	75,700	▲ 650	15,000	14,900	▲ 100	▲ 0.7	99
大阪	26,210	27,500	1,290	5,300	5,540	240	4.5	100
兵庫	181,930	177,400	▲ 4,530	36,100	36,500	400	1.1	97
奈良	41,840	45,900	4,060	8,160	9,040	880	10.8	100
和歌山	35,040	35,400	360	7,090	7,230	140	2.0	99
鳥取	67,240	64,600	▲ 2,640	13,100	13,000	▲ 100	▲ 0.8	97
島根	92,570	89,700	▲ 2,870	18,200	18,200	0	0.0	99
岡山	160,190	156,700	▲ 3,490	30,500	31,100	600	2.0	94
広島	130,130	123,300	▲ 6,830	24,900	24,800	▲ 100	▲ 0.4	95
山口	110,738	103,000	▲ 7,738	22,000	21,500	▲ 500	▲ 2.3	96
徳島	58,320	57,900	▲ 420	12,300	12,800	500	4.1	95
香川	71,040	67,000	▲ 4,040	14,200	14,200	0	0.0	94
愛媛	74,490	72,600	▲ 1,890	15,000	14,900	▲ 100	▲ 0.7	98
高知	50,050	56,400	6,350	10,900	12,700	1,800	16.5	95
福岡	184,380	176,800	▲ 7,580	37,000	36,900	▲ 100	▲ 0.3	96
佐賀	135,230	126,800	▲ 8,430	25,800	25,300	▲ 500	▲ 1.9	94
長崎	62,640	61,900	▲ 740	13,100	13,200	100	0.8	97
熊本	189,920	181,200	▲ 8,720	36,900	36,100	▲ 800	▲ 2.2	97
大分	117,780	111,700	▲ 6,080	23,400	22,700	▲ 700	▲ 3.0	97
宮崎	94,470	85,800	▲ 8,670	19,000	17,400	▲ 1,600	▲ 8.4	98
鹿児島	111,540	103,700	▲ 7,840	23,100	22,200	▲ 900	▲ 3.9	96
沖縄	2,930	2,670	▲ 260	950	860	▲ 90	▲ 9.5	90

注1:①は県間調整後の数値。  
 2:②、④及び⑤は、それぞれ統計部公表の平成26年10月15日現在の予想収穫量(主食用)、主食用作付見込面積及び作況指数。  
 3:③の都道府県欄は、原数が7桁以上の場合は3桁目を、6桁及び5桁の場合は2桁目を、4桁の場合は1桁目を四捨五入した値。  
 4:ラウンドの関係で内訳と合計が一致しない場合がある。

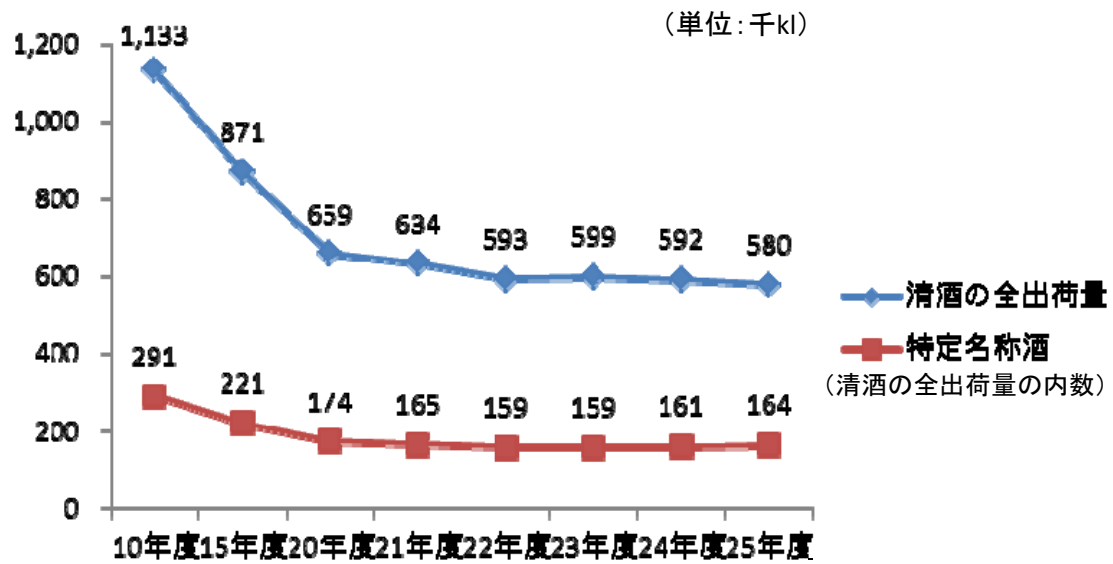


# 35 酒造好適米の需要に応じた生産拡大について

- 酒造好適米は、主食用米よりも高価格で取引されていること等から、需給調整の対象となる主食用米の生産数量目標の枠内で生産されているが、清酒の需要が減少する状況下では、その生産を主食用品種へ切り替えることにより、生産者は米の作付けを減らすことなく稲作経営を行ってきたところ。
- しかしながら、長期的に減少傾向にあった清酒の出荷量が、22年度以降はほぼ横ばいに転じるとともに、吟醸酒等の特定名称酒の出荷量は増加傾向。  
また、吟醸酒等については、今後、輸出を含めた更なる需要拡大が期待されているところ。
- このため、今後の需要増に応じた生産拡大が円滑に行われるよう、26年産米から取扱要領の見直しを行い、清酒メーカーにおける清酒の生産増に対応した酒造好適米の増加分は、主食用米の生産数量目標の増減に左右されることなく、その枠外での生産が可能となったところ。

(※)「需要に応じた米生産の推進に関する要領」(農林水産省生産局長通知)

## ○ 清酒出荷量の推移



注: 日本酒造組合中央会調べ。年度は暦年で25年度は速報値。  
清酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件(原料、精米歩留)により、吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

## ○ コメ・コメ加工品の輸出戦略 25年8月(清酒の部分(抜粋))

### 現状

- 清酒については、近年、額・量ともに顕著に増加していたが、2008年以降は増加のスピードが鈍化。
- 単価は上昇傾向であったものの、近年は横ばい。
- 輸出先国は米国、香港等が中心だが、以前に比べて多様化。

### 輸出拡大に向けた目標と方向性

- 重点地域及び発信力の高い都市での事業にリソースを投入し、認知度の向上と販路の確保・拡大を図る。
- 酒造業者と生産者が結びつきをより強化すること等による原料米の数量や価格の安定供給の確保、特に酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

(別紙1)

制度設計の全体像

1. 米の直接支払交付金

- 米の直接支払交付金については、激変緩和のための経過措置として、26年産米から単価を7,500円に削減した上で、29年産までの時限措置(30年産から廃止)とする。

2. 日本型直接支払制度(多面的機能支払)の創設

- 農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、地域内の農業者が共同で取り組む地域活動(活動組織を作り構造変化に対応した維持管理の目標を含む協定を市町村と締結)を支援。
- 26年度は予算措置として実施することとし、27年度から法律に基づく措置として実施。
- 国と地方を合わせた10a当たり交付単価は、次のとおり。
 

	農地維持支払	資源向上支払*
田(都府県/道)	3,000円/2,300円	2,400円/1,920円
畑(都府県/道)	2,000円/1,000円	1,440円/ 480円
草地(都府県/道)	250円/ 130円	240円/ 120円
- ※ 現行の農地・水保全管理支払の5年以上継続地区等は75%単価を適用。
- 5年後に支払の効果や取組の定着状況等を検証し、施策に反映。
- 中山間地域等直接支払、環境保全型農業直接支援については、基本的枠組みを維持。

3. 経営所得安定対策

- (2) 米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ)
  - 農業者抛出に基づくセーフティネットとして、実施する。
  - 対象農業者は、法改正により27年産から、認定農業者、集落営農、認定就農者に対して実施する(ただし、規模要件は課さない)。
  - なお、26年産に限り、ナラシ対策非加入者に対する影響緩和対策として、26年産の米の直接支払交付金の加入者のうち、26年産のナラシ対策に加入しない者に対して、26年産のナラシ対策で米の補填が行われる場合に、国費分相当の5割を交付する(この場合、農業者の抛出は求めない)。
  - 中期的には、すべての作目を対象とした収入保険の導入について調査・検討を進め、その道筋をつける。

### 4. 食料自給率・自給力の向上に向けた水田のフル活用

- 食料自給率・自給力の向上を図るため、水田活用の直接支払交付金により、飼料用米、麦、大豆など、戦略作物の本作化を進め、水田のフル活用を図る。  
(飼料用米・米粉用米について数量払いを導入し、上限値10.5万円/10aとする。(別図(P.37)参照))
- 地域の裁量で活用可能な交付金(産地交付金(仮称))により、地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、麦・大豆を含む産地づくりに向けた助成を充実する。  
(飼料用米・米粉用米についての多収性専用品種への取組、加工用米の複数年契約(3年間)の取組に対し、1.2万円/10aを交付。)

※1 麦、大豆、飼料作物、WCS用稲及び加工用米の水田活用の直接支払交付金の単価は現行どおりとする。

※2 そば・なたねについては、産地交付金(仮称)からの交付に変更することとする。

### 5. 米政策の見直し

- 需要に応じた生産を推進するため、水田活用の直接支払交付金の充実、中食・外食等のニーズに応じた生産と安定取引の一層の推進、きめ細かい需給・価格情報、販売進捗・在庫情報の提供等の環境整備を進める。  
こうした中で、定着状況をみながら、5年後を目途に、行政による生産数量目標の配分に頼らずとも、国が策定する需給見通し等を踏まえつつ生産者や集荷業者・団体が中心となって円滑に需要に応じた生産が行える状況になるよう、行政・生産者団体・現場が一体となって取り組む。

### 6. 米価変動補填交付金

- 米価変動補填交付金は、平成26年産米から廃止する。

# 37 米に係る経営所得安定対策の概要

## 1 米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)

収入減少による農業経営への影響を緩和し、安定的な農業経営ができるよう、農業者拠出に基づくセーフティーネットとして、引き続き実施します。

### (1) 交付対象者

認定農業者・集落営農のうち一定規模以上の者  
 (都府県 4ha、北海道10ha、集落営農20ha以上等、市町村特認あり)

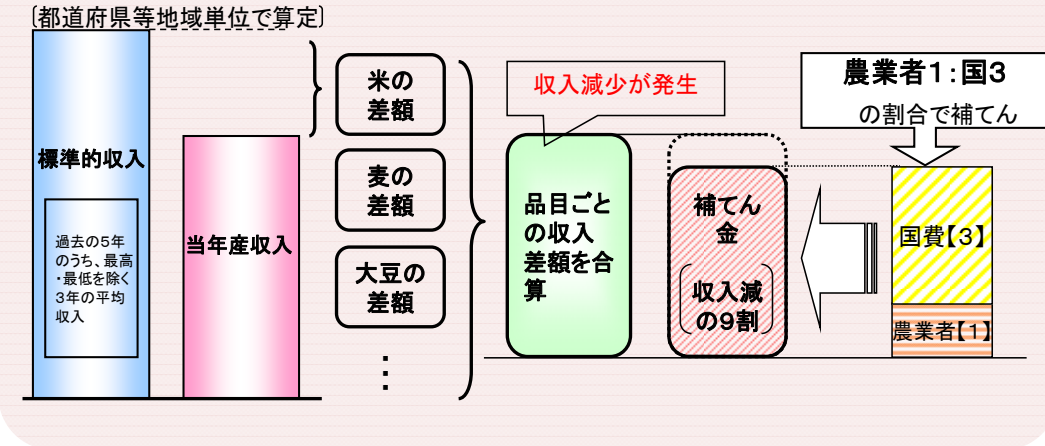
※ 27年産からは、平成26年6月に成立した改正担い手法に基づき、認定農業者、集落営農、認定新規就農者を対象に実施します(いずれも規模要件は課しません)。

### (2) 交付対象品目

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょ

### (3) 補てん額

当年産の販売収入の合計が、標準的収入を下回った場合に、その差額の9割を、国からの交付金と農業者が積み立てた積立金で補填します。国からの交付金は、農業者が積み立てた積立金の3倍の額が上限です。



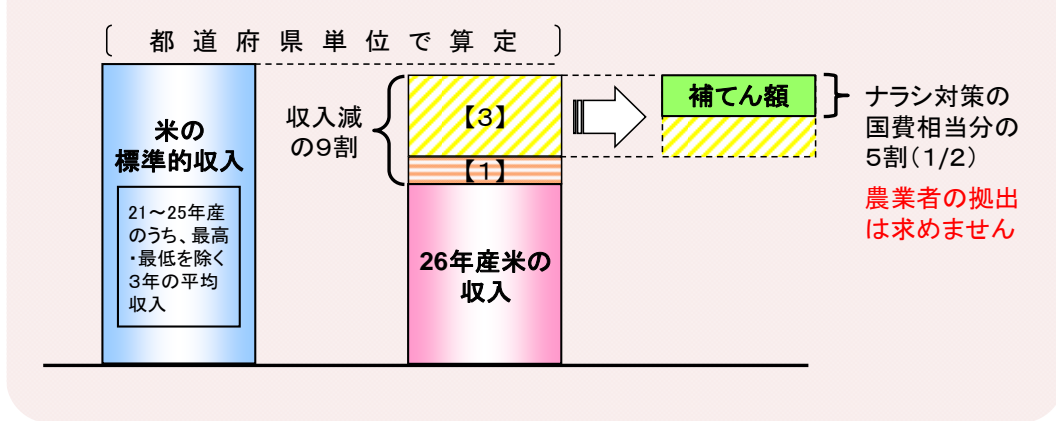
## 2 ナラシ移行のための円滑化対策(26年産限り)

平成26年産において規模要件が残る収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)に加入できない者の27年産からのナラシへの移行を円滑に進めるため、平成26年産に限り、予算措置で、農業者の拠出を求めずに対策を実施します。

(1) 交付対象者	(2) 交付対象品目
26年産の米の直接支払交付金の交付対象者のうち、ナラシ対策に加入していない者	米

### (3) 補てん額

26年産のナラシ対策で米の補填が行われる場合は、ナラシ対策の国費分相当の5割を交付します。農業者の拠出は求めません。



## 3 米の直接支払交付金(7,500円/10a)

米については、諸外国との生産条件格差から生じる不利はなく、構造改革にそぐわない面があることから、26年産米から単価を7,500円/10aに削減した上で、平成29年産までの時限措置として実施します(平成30年産から廃止)。

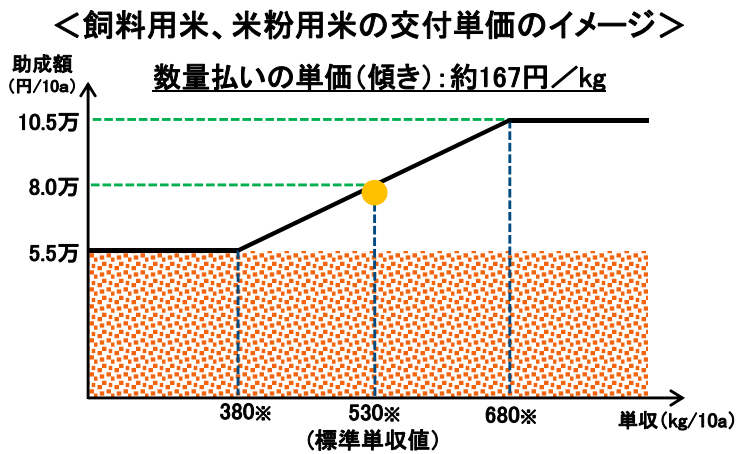
(1) 交付対象者	(2) 交付対象面積
米の生産数量目標(面積換算値)に従って、販売目的で生産(耕作)する販売農家・集落営農	主食用米の作付面積から、自家消費米相当分として一律10a控除して算定

○ 水田で飼料用米、麦、大豆等を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力の向上を図ります。

**【交付対象者】**  
販売目的で対象作物を生産する販売農家・集落営農

**【支援内容】**  
① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a
WCS用稲	8.0万円/10a
加工用米	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円/10a



注1: 数量払いによる助成は、農産物検査機関による数量確認を受けていることが条件  
注2: ※は全国平均の平年単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収(配分単収)を適用

② 二毛作助成 1.5万円/10a  
(主食用米と戦略作物助成の対象作物、又は戦略作物助成の対象作物同士を組み合わせによる二毛作を支援)

作付パターン(例)	交付金額(10a当たり)
主食用米 + 麦	(米の直接支払) + 1.5万円
麦 + 大豆	3.5万円 + 1.5万円
飼料用米 + 麦	5.5～10.5万円 + 1.5万円
米粉用米 + 飼料用米	5.5～10.5万円 + 1.5万円

③ 耕畜連携助成 1.3万円/10a  
(飼料用米のわら利用、水田放牧、資源循環の取組を支援)

④ 産地交付金

- 地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、高付加価値化や低コスト化を図りながら、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、地域の裁量で活用可能な産地交付金により、麦・大豆を含む産地づくりに向けた取組を支援します。
- 地域の取組に応じた追加配分を都道府県に対して行います。

対象作物	取組内容	追加配分単価
飼料用米、米粉用米	多収性専用品種への取組	1.2万円/10a
加工用米	複数年契約(3年間)の取組	1.2万円/10a
備蓄米	平成27年産政府備蓄米の買入入札における落札	0.75万円/10a
そば、なたね	作付の取組	(基幹作)2.0万円/10a (二毛作)1.5万円/10a

- これまでの産地資金の活用計画書を充実させ、「地域農業の設計図」として「水田フル活用ビジョン」を都道府県、地域農業再生協議会で作成。
- ビジョンでは、需要が期待できる非主食用米の作付目標や導入する技術など、今後3～5年間の水田活用の取組方針を記載。
  - ※ 26年度から「水田フル活用ビジョン」の作成が、産地交付金による支援の要件。
  - ※ 作成した「水田フル活用ビジョン」については、作成者によりホームページ等において公表。

### <水田フル活用ビジョンの内容>

#### ○ 取組方針

- ・ 作付の現状、地域が抱える課題
- ・ 作物ごとの生産の取組方針（非主食用米の作付面積の目標、生産拡大に向けて導入する新しい技術、販売先との連携、活用施策など）
- ・ 作物ごとの作付予定面積
- ・ 3年後の目標（作付面積、生産量等）

#### ○ 産地交付金の活用方針、活用方法の明細等

- ・ 支援対象となる品目、具体的な使途（取組内容）
- ・ 支援単価 等

都道府県段階及び地域段階の協議会での検討を経て作成の上、5月31日までに都道府県から国に提出

# 40 新規需要米等の用途別取組状況(平成20年産～26年産)

用途区分	平成20年産		平成21年産		平成22年産		平成23年産		平成24年産		平成25年産		平成26年産	
	計画生産量 (トン)	作付面積 (ha)	計画生産量 (トン)	作付面積 (ha)	計画生産量 (トン)	作付面積 (ha)	計画生産量 (トン)	作付面積 (ha)	計画生産量 (トン)	作付面積 (ha)	計画生産量 (トン)	作付面積 (ha)	計画生産量 (トン)	作付面積 (ha)
米粉用米	566	108	13,041	2,401	27,796	4,957	40,311	7,324	34,521	6,437	21,071	3,965	18,161	3,401
飼料用米	8,020	1,410	23,264	4,123	81,237	14,883	183,033	33,955	183,431	34,525	115,350	21,802	178,486	33,881
WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)	—	9,089	—	10,203	—	15,939	—	23,086	—	25,672	—	26,600	—	30,929
バイオエタノール用米	2,426	303	2,314	295	2,940	397	2,998	415	2,793	450	2,594	414	2,373	384
輸出用米	391	74	926	164	2,184	388	1,626	287	2,524	454	2,825	507	6,092	1,092
酒造用米	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4,354	859
その他 (わら専用稲、青刈り用稲等)	982	1,330	1,108	956	694	508	852	501	857	553	659	457	1,074	527
合計	12,386	12,314	40,654	18,142	114,851	37,072	228,820	65,569	224,127	68,091	142,499	53,744	210,540	71,073

注1: WCS用稲、わら専用、青刈り用稲については子実を採らない用途であるため計画生産量はなし。

注2: 平成26年産は平成26年10月15日現在の値。

注3: 「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

注4: なお、ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(参考)

	平成20年産		平成21年産		平成22年産		平成23年産		平成24年産		平成25年産		平成26年産	
	数量 (トン)	作付面積 (ha)	数量 (トン)	作付面積 (ha)	数量 (トン)	作付面積 (ha)	数量 (トン)	作付面積 (ha)	数量 (トン)	作付面積 (ha)	数量 (トン)	作付面積 (ha)	数量 (トン)	作付面積 (ha)
加工用米	149,048	27,332	141,168	26,126	212,829	39,327	154,555	28,137	180,885	33,092	207,882	38,039	268,256	48,743

※ 加工用米の数量については平成20～25年産は実績値。平成26年産は平成26年10月15日現在の値。

# 41 米粉用米の動向

- 米粉用米については、利用量は、平成21年度の5千トンから平成25年度には25千トンと着実に増加しているものの、近年、その伸びは鈍化。生産量は持越在庫による原料米対応が行われたこと等により、平成24年産以降減少。
- 米粉は製粉コストが小麦粉に比べて高いことから最終製品価格が高くなっており、その低減が課題。
- 米粉の利用拡大を図るため、米粉と小麦粉との価格差の縮小に向けた製粉コスト低減技術の開発に取り組んでいるところ。併せて、①「米粉倶楽部」を通じた官民一体での米粉商品の認知・拡大・消費喚起、②米粉と小麦粉のミックス粉等の新たな製品開発等を推進しているところ。

## ◆ 米粉用米の利用量

単位:千トン

21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
5	13	17	23	25

注：需要者からの聞き取り。

## ◆ 都道府県別の米粉用米計画生産の推移

単位:トン、ha

	21年産		22年産		23年産		24年産		25年産		26年産	
	数量	面積	数量	面積	数量	面積	数量	面積	数量	面積	数量	面積
新潟県	3,642	683	9,574	1,731	14,384	2,571	13,073	2,375	5,041	921	5,970	1,107
秋田県	3,132	461	5,048	746	4,396	661	2,962	516	861	149	1,967	341
熊本県	523	100	637	109	1,023	184	1,123	205	683	120	1,321	249
群馬県	515	111	612	124	772	157	897	183	857	175	939	191
埼玉県	898	209	1,007	206	1,008	206	1,495	305	1,726	354	919	188
山形県	233	41	584	99	1,408	233	1,164	190	903	147	912	148
栃木県	774	153	1,816	364	6,342	1,256	3,743	741	4,374	842	679	141
広島県	37	5	312	56	466	88	555	106	582	111	603	114
富山県	41	7	1,052	192	1,111	204	1,117	204	662	121	540	99
茨城県	40	7	246	39	591	108	627	119	490	93	412	78
北海道	150	31	528	104	437	82	279	52	256	48	392	72
千葉県	459	86	165	31	743	139	170	32	121	23	378	71
福岡県	54	12	206	41	663	132	797	162	505	103	336	68
岩手県	262	53	238	45	536	98	633	117	511	90	270	48
石川県	65	13	102	19	111	20	182	33	52	10	244	44
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
全国計	13,041	2,401	27,796	4,957	40,311	7,324	34,521	6,437	21,071	3,965	18,161	3,401

資料：農林水産省調べ(新規需要米の取組計画認定状況から抜粋)

## ◆ 売買価格の比較(kg当たり)

米粉用米	30円程度
小麦	50円程度

米粉	120～300円程度
小麦粉	100円程度

注：小麦粉価格は大手製粉企業の平均値。



## 42 飼料用米の動向

- 飼料用米については、平成25年産は備蓄米・加工用米へ転換されたため生産量は前年を下回ったが、平成26年産では、ほぼ平成24年産の水準まで拡大しており、価格等の条件が整えば更に相当量の需要が見込まれる状況。
- 米政策見直しの下、水田活用の直接支払交付金について、平成26年度から数量払いを導入し生産性向上のインセンティブを高めるとともに、需要先の確保に向けた畜産農家等とのマッチング活動や円滑な流通体制の整備等の推進に取り組んでいるところ。

### ◆ 都道府県別の飼料用米等計画生産面積の推移

単位:ha

	飼料用米						備蓄米			加工用米		
	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	24年産	25年産	26年産	24年産	25年産	26年産
栃木県	412	1,285	2,662	4,143	1,723	3,943	342	2,067	2,069	1,246	2,333	2,114
青森県	130	834	3,511	2,972	1,708	2,812	410	3,429	3,502	1,154	1,554	1,663
茨城県	122	555	1,635	1,289	1,250	2,499	17	283	284	1,786	1,914	2,008
山形県	614	1,092	2,347	2,507	1,700	2,150	1,295	2,104	2,278	1,933	2,430	3,571
岩手県	265	804	1,811	2,024	1,638	2,035	966	1,426	1,501	992	673	1,674
宮城県	406	1,459	1,763	1,903	1,475	1,954	746	1,402	2,075	73	353	962
秋田県	127	741	1,848	1,541	748	1,180	1,675	4,435	4,450	8,423	9,147	10,284
福岡県	95	386	782	864	811	1,153	24	91	77	365	377	451
千葉県	126	490	1,020	1,097	679	1,138	19	497	529	742	914	1,273
岐阜県	239	486	698	830	735	1,075	0	151	152	138	204	260
大分県	212	580	941	860	734	1,055	0	48	48	39	46	102
愛知県	63	205	733	896	494	1,041	0	356	272	378	413	463
埼玉県	45	285	811	620	337	945	0	122	131	266	346	208
福島県	350	759	1,601	1,064	514	888	10	2,062	3,724	137	360	485
新潟県	14	859	1,883	1,851	651	876	1,784	5,742	6,000	5,440	5,668	6,586
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
全国計	4,123	14,883	33,955	34,525	21,802	33,881	15,734	34,546	47,170	33,092	38,039	48,743

資料：農林水産省調べ(飼料用米・加工用米：取組計画認定状況から抜粋 備蓄米：政府買入入札の結果)

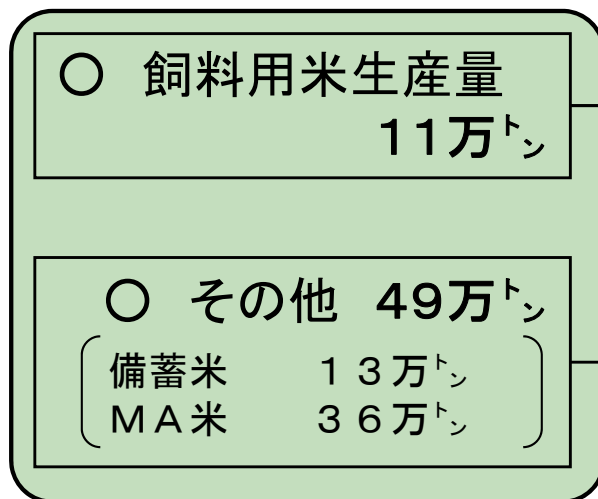
注：備蓄米の面積は、落札数量と水稲10a当たり平年収量を用いて算出した推定値である。なお、産地指定のない枠で落札されたものがあるため変動する場合がある。

## 43 今後の飼料用米の供給増大のイメージ

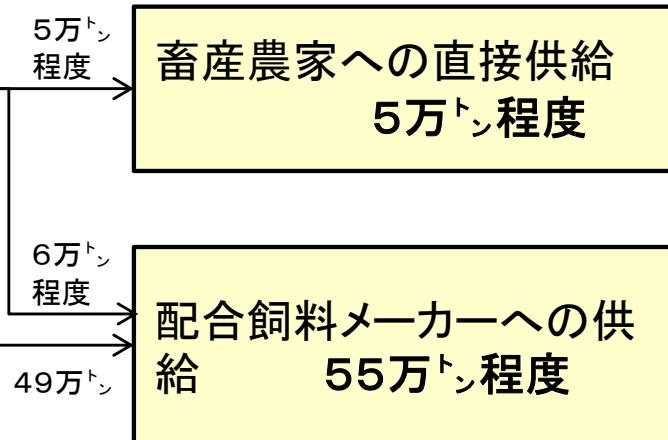
- 現状、飼料用に60万トンが畜産農家・配合飼料メーカーに供給されているところ。
- 配合飼料原料として、米を家畜の生理や生産物に影響を与えることなく利用できる量は450万トン程度と見込まれる。
- 飼料用米の安定的な利用を図るには、低価格での供給や長期的・計画的な供給等の取組が課題。

### 現状の供給量(25年度)

#### 【飼料用米供給】



#### 【需要先】



### 利用可能量

利用可能量  
450万トン程度

飼料用とうもろこしの  
輸入量 約1,000万トン

※ MA米については、一部は配合飼料メーカーを通さず、大規模畜産農家に供給(約1万トン)

#### <今後の取組課題>

- 配合飼料の主原料(とうもろこし等)と同等またはそれ以下の価格での供給
- 長期的かつ計画的な供給  
(現在の飼料工場は配合設計や施設面の制約から、短期・大量の受け入れは不可能)
- その他の環境整備  
(飼料用米の集荷・流通・保管施設の整備、直接供給体制の構築等の集荷・調製等に伴うコスト削減が必要)